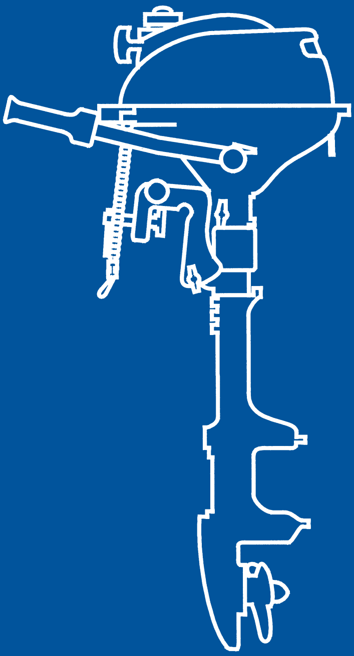
HONDA
MARINE

4ストローク船外機

BF2D

取扱説明書



eSPEC
ECOLOGY CONSCIOUS TECHNOLOGY

ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

Honda 4 ストローク船外機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。

お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

★取扱説明について

この取扱説明書は

－乗船するときは必ず携帯してください。

－紛失や損傷の起きない場所に保管してください。

－船外機を貸与または譲渡される場合は、本機といっしょにお渡しください。

－紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

お買い上げ頂いた船外機は＊CARB2008、＊EPA2006、国内自主規制の排気ガス規制値を大幅に下回る環境性能を達成しています。

＊CARB（米国カリフォルニア州大気資源局）、EPA（米国環境保護庁）

CARB 2008をクリアできる排ガスレベルの船外機を表すHondaウルトラローエミッションの識別マークです。

Hondaの船外機は全てCARBの定めたマリンエンジンに対する排出ガス規制の最終年度（2008年）の値をクリア。
同時にEPA2006最終規制値もクリア。

Hondaの船外機は全て（社）日本舟艇工業会のマリンエンジン排ガス自主規制の最終規制値をクリアしています。

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

この取扱説明書は、お買いあげいただいた船外機を安全に正しく操作する手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、船外機の正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明してあります。
船外機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、船外機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について

本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告

指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意

指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント

指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更等によりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

目　　　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう …… 4
船外機について …… 4
出航する前に …… 5
船の安全とルール …… 6
安全ラベル …… 10

Honda 4 ストローク船外機の点検・整備方式 …… 11

各部の名称と取扱いをおぼえましょう …… 12
リコイル　スタータ　グリップ …… 14
チョーク　ノブ …… 14
スロットル　レバー …… 15
スロットル　グリップ …… 15
スロットル　グリップ固定つまみ …… 15
エンジン停止スイッチ …… 16
非常停止スイッチ …… 16
燃料給油キャップ／通気ノブ …… 17
燃料コック　レバー …… 17
チルト　レバー …… 18
クランプ　ハンドル …… 18
蝶ボルト（ハンドル重さ調整ボルト） …… 19
調整ロッド …… 19
エンジン　オイル点検窓 …… 20
カバー固定バンド …… 20
アノード　メタル …… 20

船外機の正しい取付けかた …… 21
適応ボート …… 21
トランサム長さ …… 21
取付け位置 …… 21
取付け高さ …… 22
取付けかた …… 23
取付け角度（角度の調整） …… 24

お出かけ前の点検（出航前点検）をしましょう …… 25
エンジン　オイルの点検 …… 25
燃料の点検 …… 26
その他の点検 …… 28

エンジンのかけかた …… 29

エンジンの止めかた …… 33
緊急停止の場合 …… 33
通常停止の場合 …… 33

運転操作のしかた …… 35
走りかた …… 35
かじ取り …… 36
後進のしかた …… 36
チルトアップのしかた …… 38

運搬のしかた …… 41

定期点検を行いましょう …… 44

点検・整備のしかた …… 45
付属工具と付属部品 …… 45
エンジン　オイルの点検・交換 …… 46
ギヤ　オイルの交換 …… 48
点火プラグの点検・調整・交換 …… 49
耐水グリース給油個所 …… 50
プロペラの交換のしかた …… 51
シャー　ピンの交換 …… 52
スタータ　ロープの点検 …… 53
始動装置の故障 …… 53
船外機が落水したとき …… 55
エンジンがかからないとき …… 56

保管のしかた …… 57
清掃・手入れ …… 57
燃料の抜きかた …… 58

故障のときは …… 60
主要諸元 …… 62
配線図 …… 63
点検整備記録表 …… 64

安 全 に お 使 い い た だ く た め に

警告

あなたと他の人の安全を守るために、つぎの指示に従ってください。

★船外機について

- エンジン出力に適応するボートを選定してください。また、船外機が正しく搭載されているか確認してください。
- 他の人に船外機を運転させる場合は適切な指示をしてください。
- ガード、ラベル、カバーなどの安全装置を取外さないでください。これらのものはあなたの安全のために取付けられています。
- 船外機を改造しないでください。
- 非常時に備えてエンジンをすばやく停止させる方法を理解してください。
- 航走中は非常停止スイッチのコード(カール　コード)を運転者の身体の一部に必ずつけてください。
- 幼児や子供が運転の妨げにならないように注意してください。
- 排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。ガレージやボート　ハウスなど換気の悪い所ではエンジンを始動しないでください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して大けがや死亡事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは、エンジンを停止して換気のよい場所で行ってください。
- 燃料を補給しているときや、燃料タンクの付近では、たばこを吸ったり炎や火花を近づけないでください。
- 燃料タンクには燃料を入れ過ぎないでください。また、補給後、燃料給油キャップが正しく、しっかりと締まっているか確認してください。
- 燃料を補給するときはこぼさないように注意してください。こぼれた燃料や気化した燃料に引火することがあります。

こ れ だ け は ぜ ひ 守 り ま し ょ う

警告

★出航する前に

艇の出航および操船時には、オーナー（船長）は、艇の点検、天候、海況の判断、安全の確保に対して、適切な対応が出来るよう常に心がけてください。

このようなとき、出航はやめましょう。

- 天気予報で、強風注意報、または警報が発令されているとき。
- 日本の沖合に台風があるとき。
  上記のようなとき、たとえ港内は静かでも出口付近では潮流などと相まって思わぬ高波になっていることがあります。

天気予報を確認しましょう。

海の気象は変わりやすいものです。常に天気予報を確認して、天気が悪くなりそうなときは、出航しない、寄港することを守ってください。

天気予報を知る代表的な方法

・新聞の天気予報、ラジオ・テレビの天気予報
・電話の天気予報；ダイヤル177（航行水域に当たる地方の市外局番＋177）
・地方気象台、漁業組合、マリーナへの問い合わせ
・空を観測し天気を予想すること

航行計画をマリーナ、身内または友人に知らせましょう

・むりやりな計画は立てない
・夜間航行はできるだけ避ける
・できるだけ二隻以上のグループで行動する
・行動水域の状況を調べておく
・天気が悪くなった場合の避難港を選んでおく
・船舶安全規則で定められた法定備品等の確認をする
・携帯電話を防水パックに入れて携行する
・定員をオーバーして乗せない

乗員と積荷に気をくばりましょう

・乗員や積荷はバランスよく配置する

出航前各部作動点検を徹底しましょう。

帰航後の点検を実施しましょう。

警告

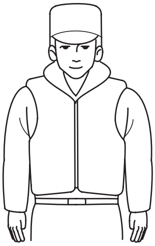
★船の安全とルール

●見張りを励行しましょう。

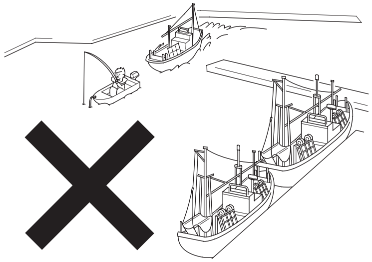
- 航行中、漂泊中、錨泊中を問わず周囲の見張りを行いましょう。
- 漂流物や藻など、また、衝突のおそれのある船が近づいていないか確認しましょう。
- 船位を把握し、船の性能を考慮して岸から離れすぎないようにしましょう。
- 潮流や波の激しくなる水域には入らないようにしましょう。

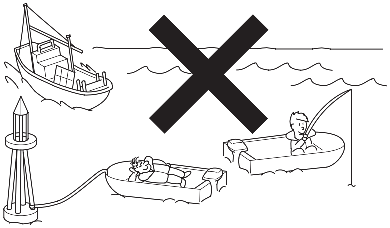
●船の法律や規則を守りましょう。

- 船外機を運転する前に、ボートの航走に関する全ての法律や規則を熟知し、正しい運転を行ってください。
- 海上衝突防止法、海上交通安全法、港則法などのルールを守ってください。
- ボートに乗る人は必ずライフ　ジャケットを着用してください。



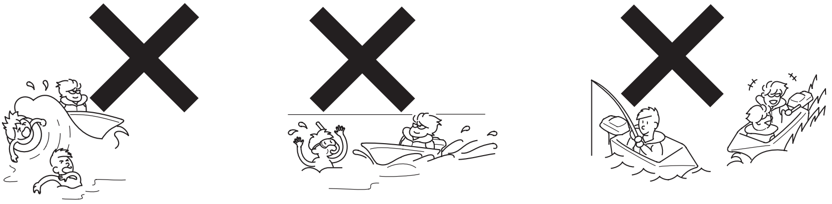
- 航路内、狭水道で錨泊、漂泊や浮標への係留はしないようにしてください。



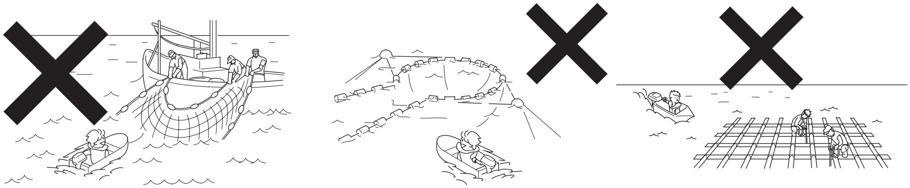


警告

- 遊泳中の人がいる場所では、運転しないでください。
- 海水浴場やダイビング、釣りをしている人に近づかないでください。



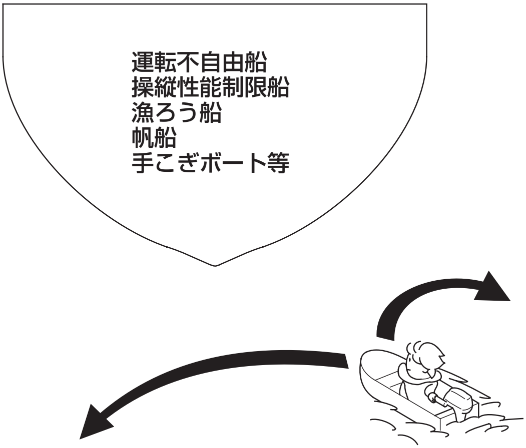
- 漁ろう中の漁船、定置網、養殖場に近づかないでください。



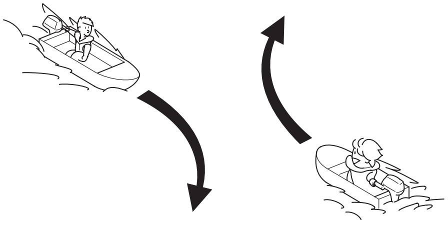
- 法律や条例などで航行が禁止されている水域や工事、作業が行われている区域に入らないでください。
- 酒を飲んでの運転や薬物を服用して船を運転しないでください。判断力がにぶり重大な事故を引き起こすことがあります。
- 衝突を避けるための針路または速力の変更は、十分余裕を持ち他船が容易に確認できるように大幅に行いましょう。

警告

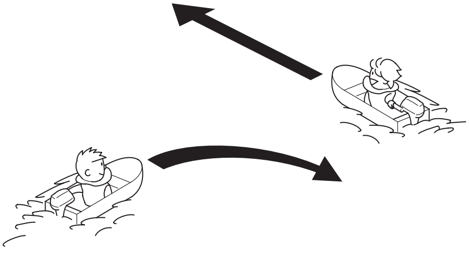
- 運転不自由船、操縦性能制限船、漁ろう船、帆船、手こぎボート等の針路をさまたげないようにしましょう。



- 行き会い船

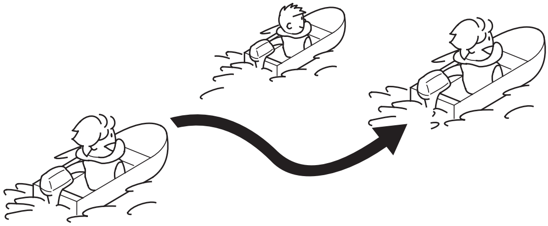


- 横切り船

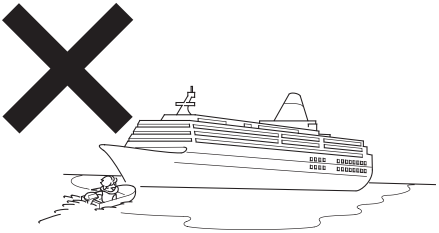


警告

- 追い越し船

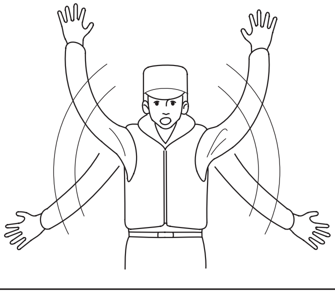


- 大型船は死角が大きいため近づかないようにしましょう。



●もしものときは

- 乗員や他の人が水中に落ちたときは、直ちにエンジンを停止し救助してください。
- 海上における事件・事故の緊急通報用電話番号としてダイヤル118番が開設されています、事故または故障などにより救援が必要となったとき、携帯電話、PHSなどから海上保安庁へ連絡できます。
- 救助合図は両腕を広げ上下に振ります。



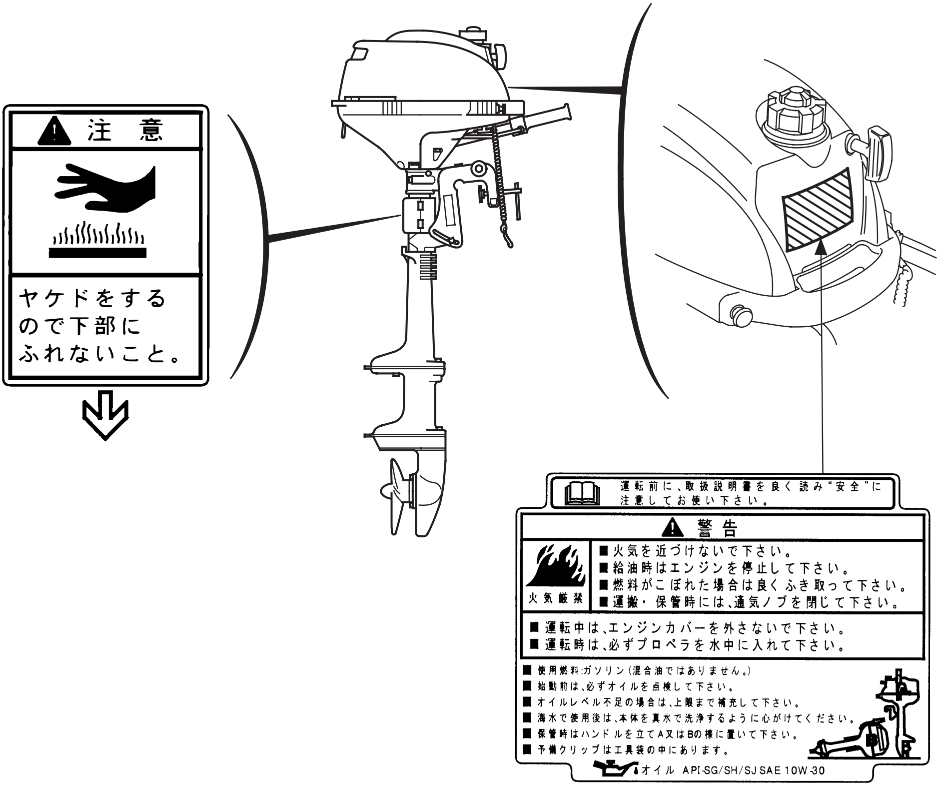
安全ラベル

船外機を安全に使用していただくために、本機に安全ラベルが貼られています。ラベルをすべて読んでからご使用ください。

ラベルははっきりと見えるように、きれいにしておいてください。

本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなったら新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。

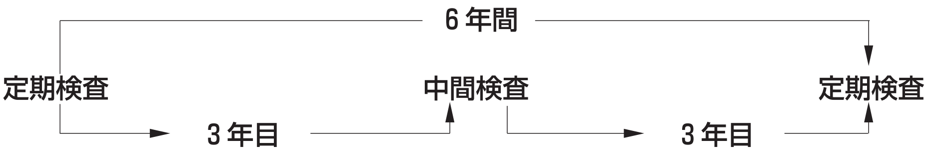
ラベルはお買いあげ販売店に注文してください。



Honda 4 ストローク船外機の点検・整備方式

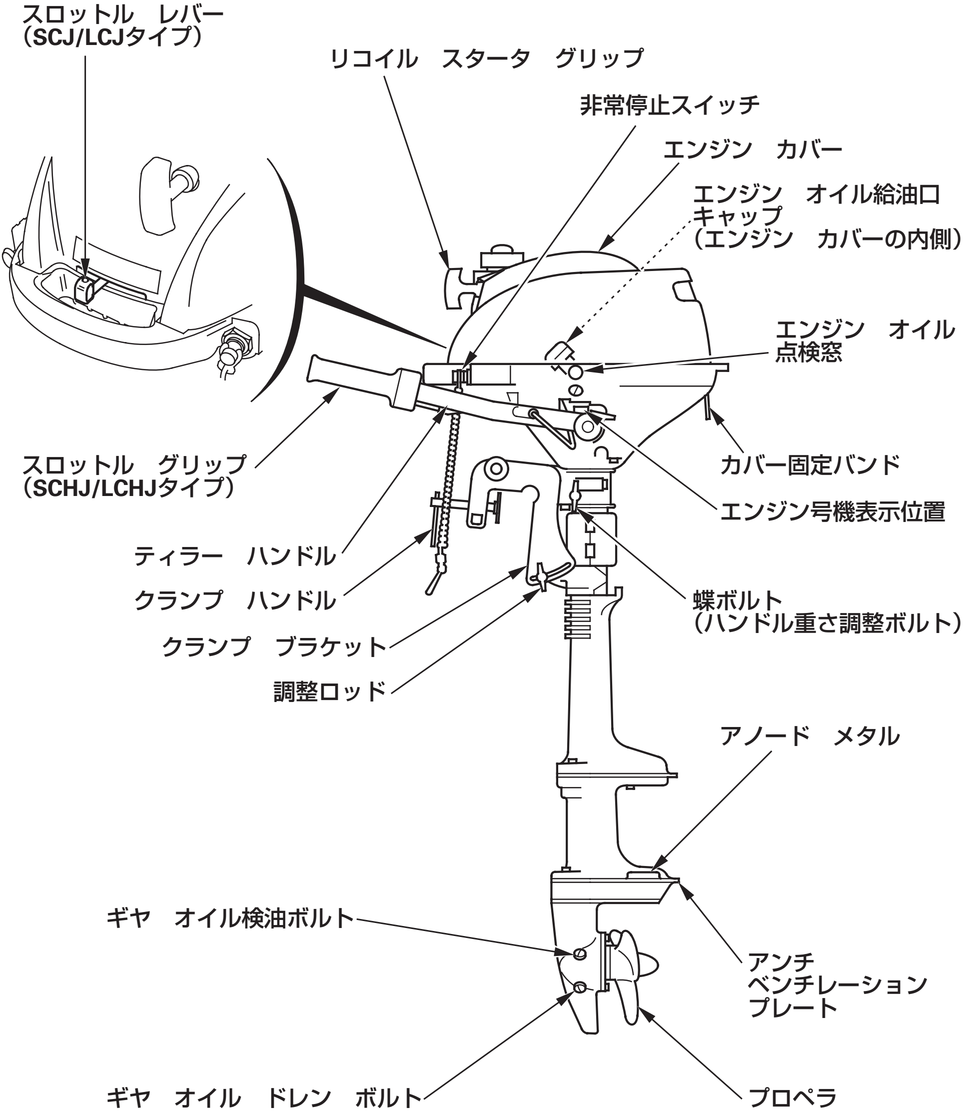
安全に航行するために、また船外機を快適にお使いいただくために、定められた点検・整備を必ず行いましょう。
点検・整備には以下のものがあります。

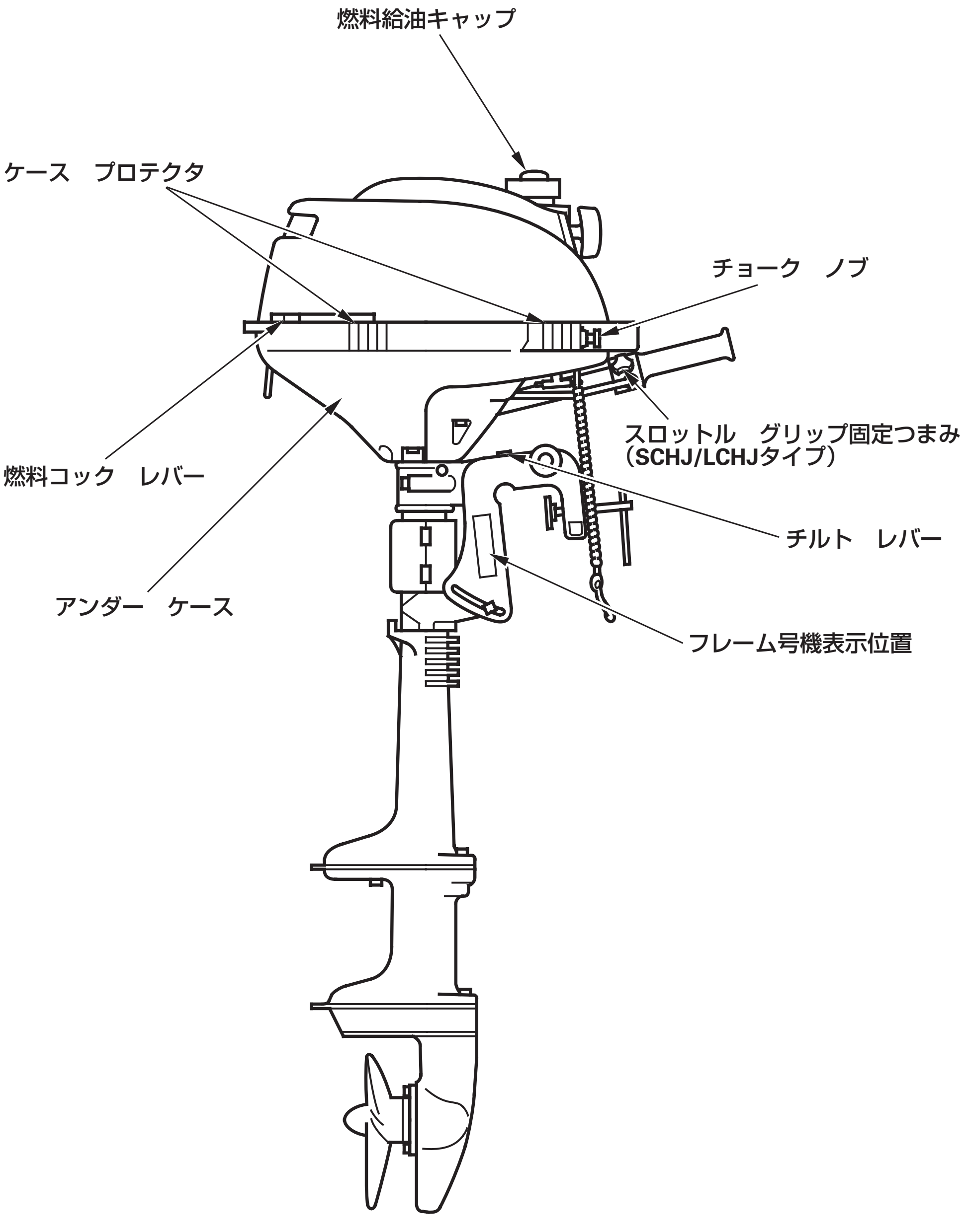
- あなたご自身が行うお出かけ前の点検(出航前点検)。
- お買いあげ販売店があなたに代って行う定期点検(初回、6 か月毎)。また経年変化により劣化する部品を定期的に交換する整備(1 年毎または 3 年毎)があります。
  点検整備を行ったときは、販売店で巻末の点検整備記録表に記入してもらってください。
- 船舶検査証書の交付後は、船舶安全法に基づいて法定検査があります。



正しい点検、整備を受けて安全、快適なボーティングを楽しみましょう。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

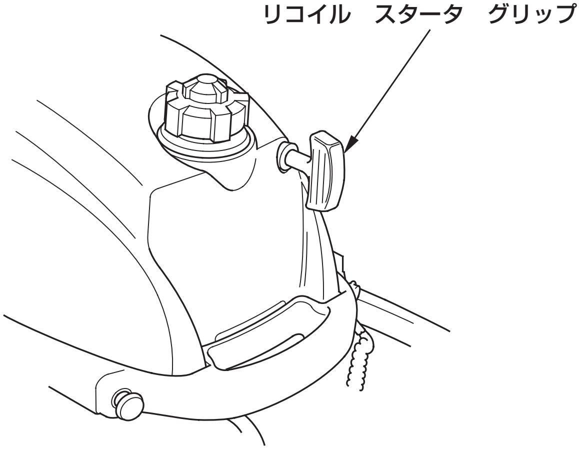




燃料給油キャップ
ケース　プロテクタ
チョーク　ノブ
スロットル　グリップ固定つまみ
（SCHJ/LCHJタイプ）
燃料コック　レバー
チルト　レバー
アンダー　ケース
フレーム号機表示位置

リコイル　スタータ　グリップ

船外機を始動する装置です。

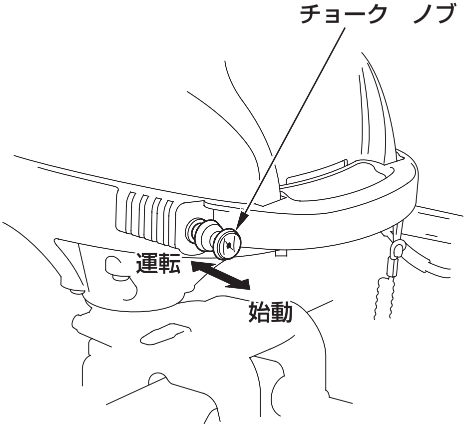


チョーク　ノブ

エンジンが冷えているとき、操作します。

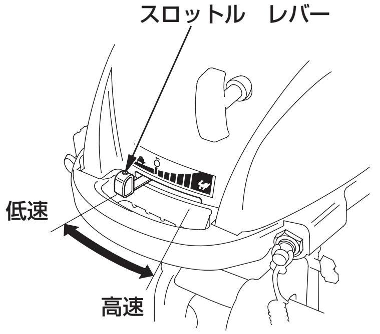
押す：　運転

引く：　始動



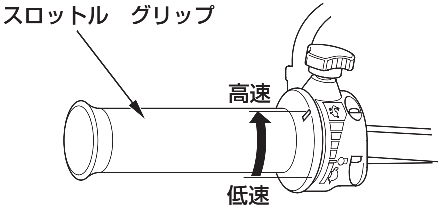
スロットル　レバー（SCJ/LCJタイプ）

エンジンの回転数を調節するものです。
始動後、運転中、停止時に操作します。
右に動かすと回転が上がります。



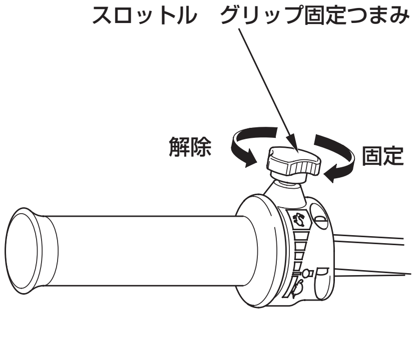
スロットル　グリップ（SCHJ/LCHJタイプ）

エンジンの回転を調節するものです。始動時、運転中、停止時に操作します。
矢印の方向にまわすと回転が上がります。



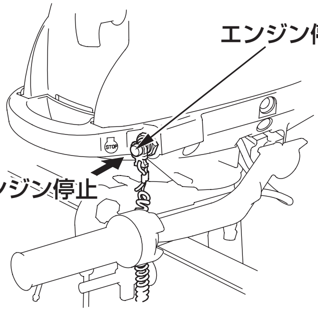
スロットル　グリップ固定つまみ（SCHJ/LCHJタイプ）

スロットル　グリップを固定して、航走したいときに操作します。
スロットル　グリップが自動的に戻らない程度に締付けてください。



エンジン停止スイッチ

エンジンを停止させるときに操作します。



非常停止スイッチ

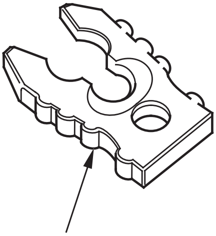
運転者が万一水中に落ちたり、操作位置から離れたとき、自動的にエンジンを停止させる装置です。

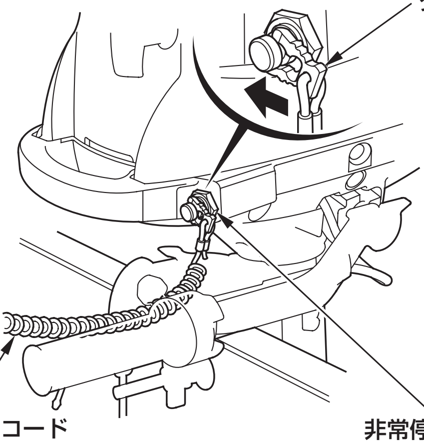
クリップがスイッチから引き抜かれると、エンジンは停止します。

運転中は、カール　コードを運転者の身体の一部にしっかりと取付けておいてください。

予備クリップが工具袋に入っています。

- **クリップがスイッチに取付けられていないとエンジンは始動しません。**
- **予備クリップがあることを確認してください。**
  クリップを紛失しないようご注意ください。

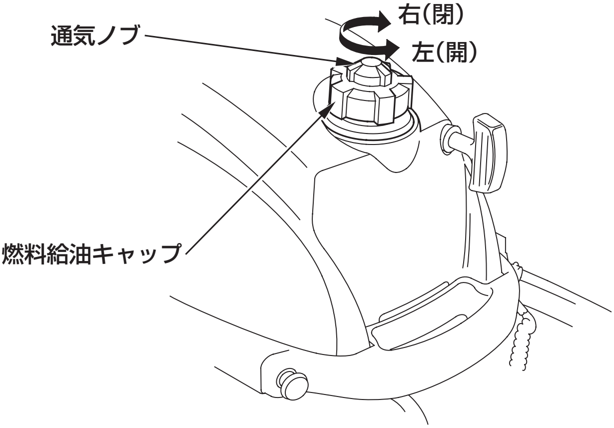




燃料給油キャップ／通気ノブ

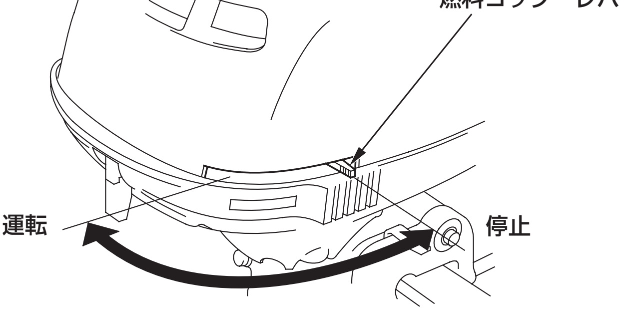
通気ノブは燃料タンク内を大気としゃ断したり、通気したりする装置です。燃料を補給するときは、通気ノブを**左(開)**の方向に 2 ～ 3 回転まわしてから燃料給油キャップを外してください。

- **運搬、保管時には通気ノブを右(閉)の方向にまわし確実に締めてください。**



燃料コック　レバー

燃料タンクからキャブレータまでの通路を開閉するときに操作します。操作は確実に**"運転"**、**"停止"**の位置に合わせてください。

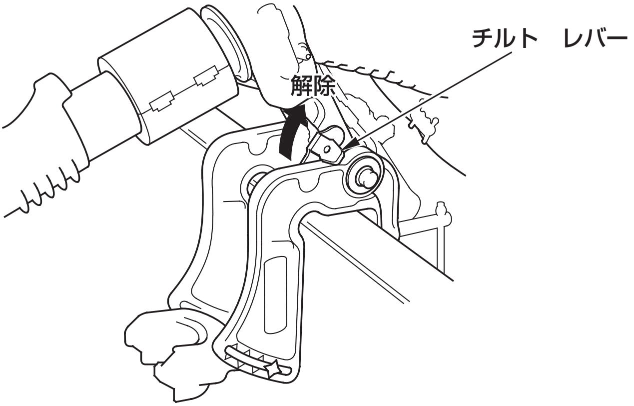


チルト　レバー

船外機をチルト　アップの状態に保持します。

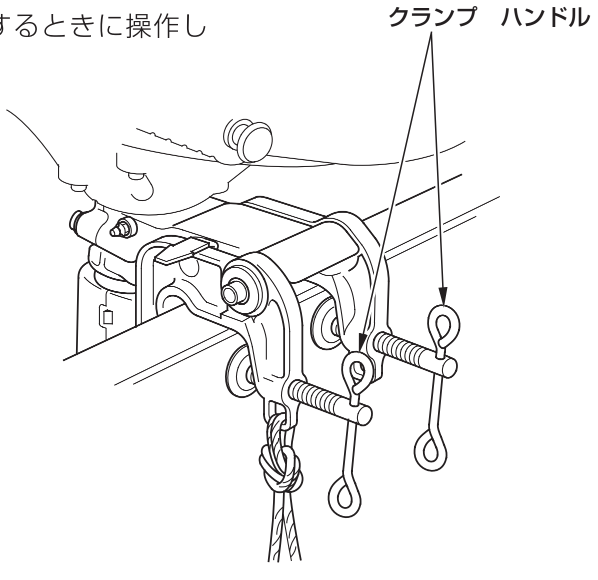
船外機を使用状態に戻すときに操作します。

船外機のチルト　アップは浅瀬に係留および停泊するときに行います。（38 頁参照）



クランプ　ハンドル

トランサム　ボード（船の取付け板）に船外機を取付け固定するときに操作します。

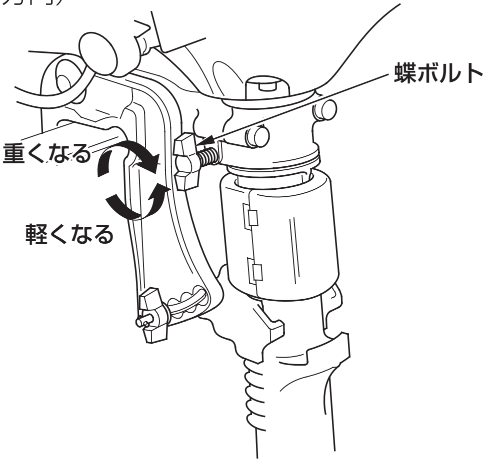


蝶ボルト（ハンドル重さ調整ボルト）

ハンドルの重さはスイベル　ケースの蝶ボルトを回転させることにより、簡単に調整できます。

重くしたいとき→右にまわす（時計方向）

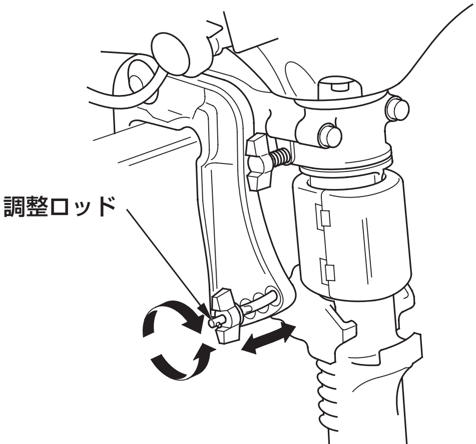
軽くしたいとき→左にまわす（反時計方向）



調整ロッド

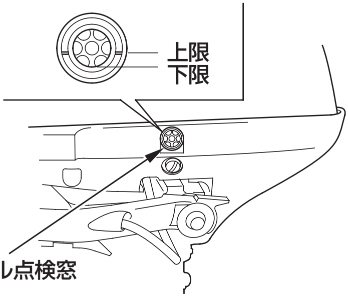
航走姿勢が適正になるよう調整するときに使用します。

調整段数： 4 段



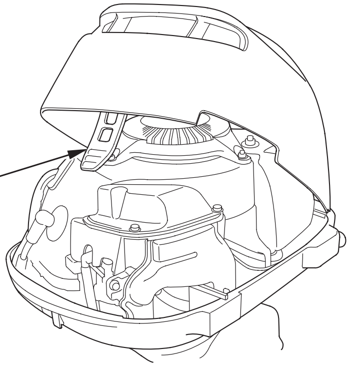
エンジン　オイル点検窓

エンジンを停止した状態で、オイルを点検するものです。



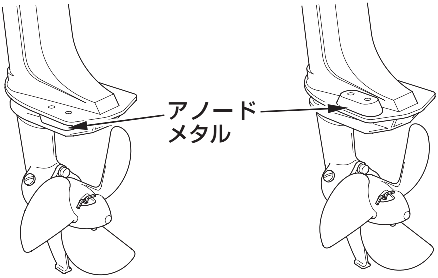
カバー固定バンド

エンジン　カバーを固定するために使用します。



アノード　メタル

アノード　メタルは船外機を腐食から守る犠牲金属です。



取扱いのポイント

- アノード　メタルの表面に塗装などをしないでください。犠牲金属としての効果がなくなり、船外機が錆びたり腐蝕する原因になります。
- アノード　メタルが 3 分の 1 以上減ったら新品と交換してください。

船 外 機 の 正 し い 取 付 け か た

船外機を正しく取付けませんと、脱落したり、直進性を失ったり、スピードが出なかったり、水をかぶったり、燃料消費量が多くなったりします。船外機の取付けは正しく行ってください。

適応ボート

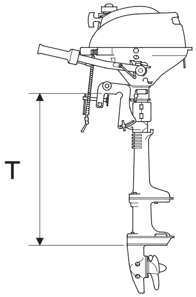
エンジン出力に適応するボートをお選びください。一般にはボートに推奨馬力が表示されています。

⚠警告

エンジンの出力に合わせてボートを選定してください。指定出力を超えるエンジンを搭載すると、操縦が不安定になり転覆する危険があります。

トランサム長さ

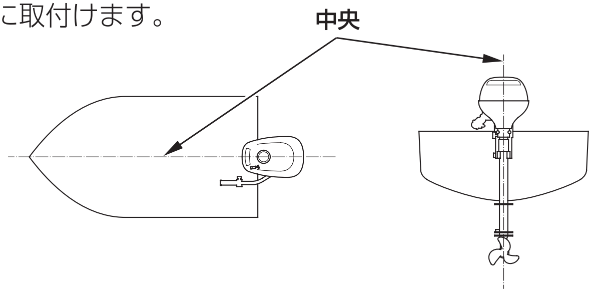
船(ボート)のトランサム高さに合わせて船外機を選びます。(図はＬタイプ)



タイプ	T (トランサム角5°時)
S	418 mm
L	571 mm

取付け位置

船尾の船幅中央に取付けます。

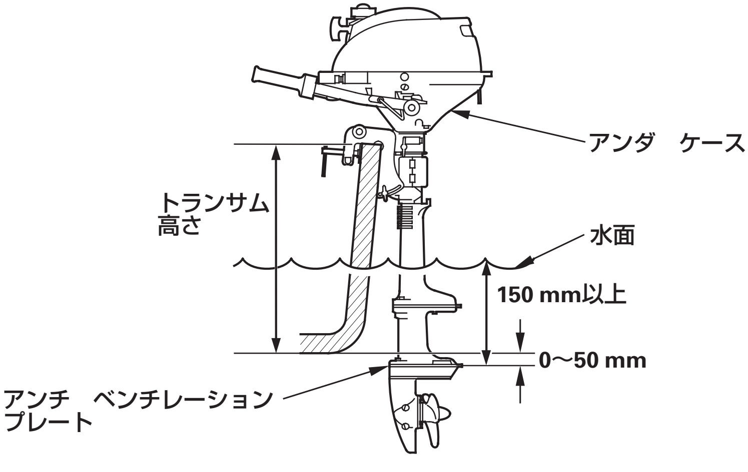


取付け高さ

ボートのトランサム上端から船底までの距離をトランサム高さといいます。
ボートに乗船した状態で、水面からアンチ　ベンチレーション　プレートまでの寸法を150mm以上にし、またアンチ　ベンチレーション　プレートが船底の延長線に対し下記の寸法になるようにボートのトランサム高さを調整してください。

標準寸法： 0～50 mm（船底の延長線から－50 mm以内）

ボートの種類や船底の形状などにより、取付け高さが変わります。ボート　メーカーの推奨取付け高さに合わせ、試走して最良の取付け高さを決めてください。



船外機の取付けが高すぎる場合は、高い波や旋回時にベンチレーションを起こし、スムーズな航走ができなくなります。

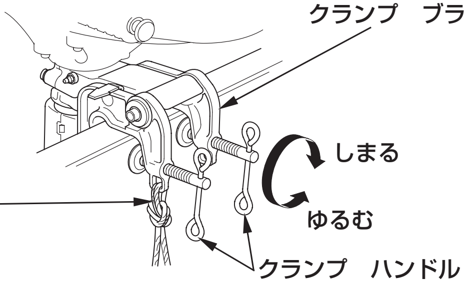
取扱いのポイント

船外機の取付け位置が極端に低いと、エンジン　アンダー　ケース内に水が侵入して悪影響を与える場合があります。取付けにあたっては、最大積載状態でエンジンを停止したときエンジン　アンダー　ケースに波、しぶき等がかからないように水面から十分高い位置にあることを確かめてください。

取付けかた

クランプ　ブラケットをトランサム　ボード(船の取付け板)にはめ、運転中にゆるまないようにクランプ　ハンドルをしっかり締付けてください。

クランプ　ブラケットにロープを結び、一方を必ず船体に結んでください。



⚠注意

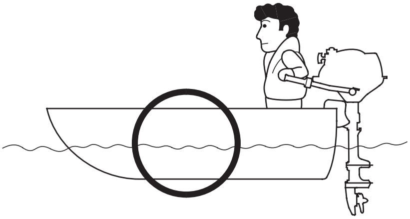
クランプ　ハンドルは確実に締付けてください。締付けがゆるいと船外機を水中に落とすおそれがあります。動力を失ったボートは操縦が不能になり危険です。

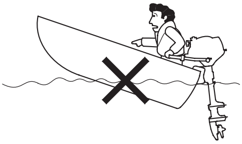
取付け角度（角度の調整）

⚠警告

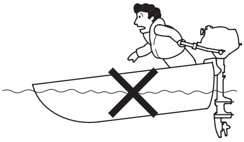
取付け角度が適正でないと、操縦性や安定性が悪くなり、事故につながる可能性があります。操縦性や安定性に異常を感じたら、ボートを停止して取付け角度の再調整を行ってください。

船が航走しているとき、船外機のアンチベンチレーション　プレートが水面と平行になるように取付けてください。





へさきが上がり、へさきが極端に振られる。



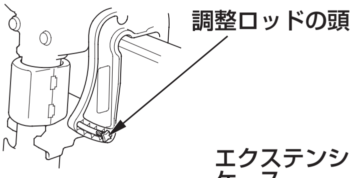
へさきが沈み、波が異常にたち、水をかぶります。

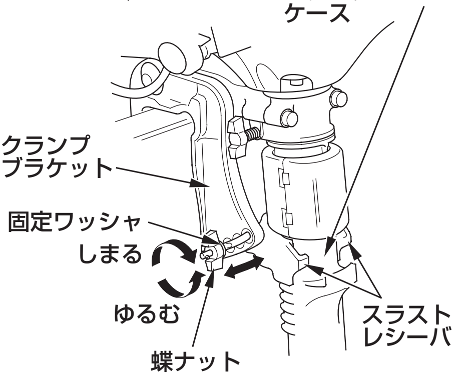
〈調整のしかた〉

1. 調整ロッドの蝶ナットをゆるめて、固定ワッシャ、調整ロッドの頭をクランプブラケットの穴から引出します。
2. スラスト　レシーバを動かして、船外機が垂直になるような位置で止め、固定ワッシャ、調整ロッドの頭をクランプ　ブラケットの穴に押し込みます。

   調整段数：　4 段
3. 蝶ナットを確実に取付けます。

   調整後、固定ワッシャ、調整ロッドの頭が確実にクランプ　ブラケットの穴に入っているか確認してください。





お出かけ前の点検（出航前点検）をしましょう

本機は４ストローク空冷エンジンです。使用燃料は無鉛レギュラーガソリンです。また、エンジン　オイルも必要です。お出かけ前には、つぎの点検を必ず行ってください。

⚠注意

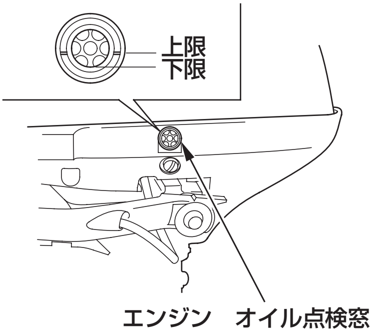
お出かけ前の点検は必ずエンジンを停止して行ってください。

エンジン　オイルの点検

〈点検のしかた〉

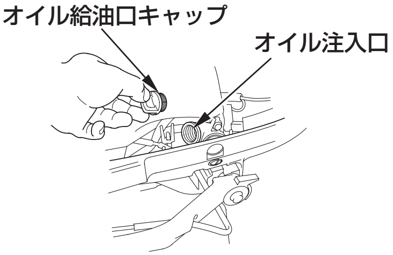
1. 本機を直立状態にします。
2. エンジン　オイル点検窓の上限と下限の間に油面があることを確認します。油面が見えない場合や下限に近い場合は、補給してください。

汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は49頁参照）



〈補給のしかた〉

1. エンジン　カバーを外します。
2. オイル給油口キャップを外し、エンジン　オイル点検窓の上限まで新しいエンジン　オイルを注入します。



〈推奨オイル〉

（４ストローク　ガソリン　エンジン　オイル）
Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SG, SH, SJ級相当のSAE 10W-30エンジン　オイル

取扱いのポイント

- **オイル給油口キャップは、手で確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。**
- **オイルを入れすぎないよう、注入後必ず点検してください。オイルが少ないときはもちろんのことですが、入れすぎることもエンジンの故障の原因になります。**

燃料の点検

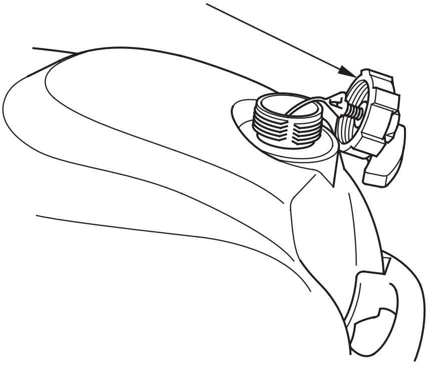
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して大けがや死亡事故を引き起こすことがあります。
ガソリンを補給するときは

- 火気を近付けないでください。
- エンジンを停止してください。
- 換気の良い場所で補給してください。
- 身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- ガソリンを注入口の口元まで入れないでください。タンク内の空気やガソリンが膨張して、燃料給油キャップからにじみ出ることがあり危険です。
- ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。布を閉じられた部屋に保管しておくと、ガソリンが気化し引火するおそれがあります。

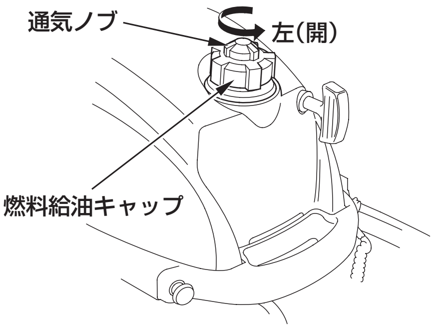
〈点　検〉

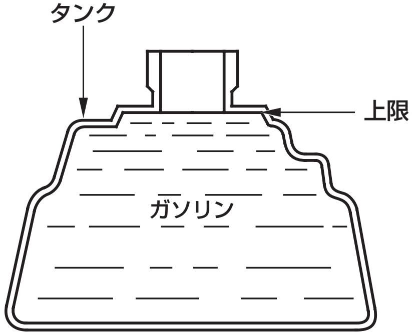
燃料の量は、燃料給油キャップを外し、燃料があるか点検します。



〈補給のしかた〉
使用燃料：無鉛レギュラーガソリン
　タンク容量： 1.0 L

通気ノブを**左（開）**の方向に２～３回転まわしてから燃料給油キャップを外します。
補給は燃料をこぼさないようにゆっくり燃料タンクの上限まで補給してください。





給油後、燃料給油キャップを確実に締付けてください。
船外機を運搬したり保管する場合は、通気ノブを**右（閉）**の方向にまわし、確実に締めてください。

⚠注意

予備の燃料タンクをご使用になる場合は、ガソリン用として日本小型船舶検査機構で認定された材質の物を使用してください。認定されていないポリタンク等を使用すると、強度・材質の変化によりガソリンがもれるおそれがあります。

取扱いのポイント

- **水や不純物が混ざっていない、新しいガソリンを使用してください。**
  ガソリンは自然劣化しますので30日に１回、定期的に新しいガソリンと入れ換えてください。
  劣化したガソリンを使用するとエンジン故障の原因となります。
- **必ず無鉛レギュラーガソリンを補給してください。高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。**
- **軽油、灯油や粗悪ガソリン等を補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響をあたえます。**

その他の点検

安全な運転をしていただくために、つぎのことも忘れずに点検してください。

①プロペラ、シャー　ピン、割ピンの損傷、取付状態

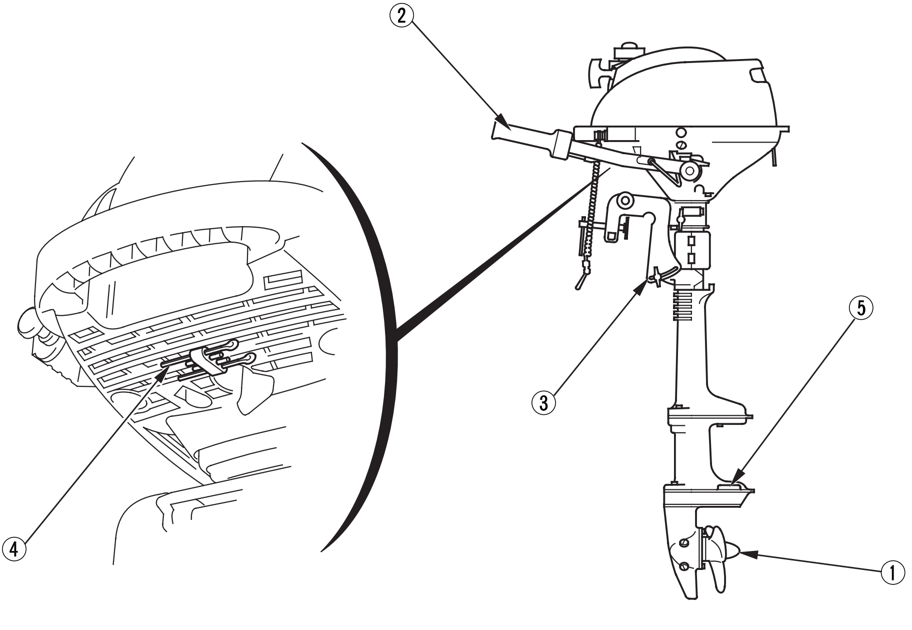
②ハンドルのゆるみ、がた、操作具合

③クランプ　ブラケットの損傷

④予備部品の有無、携帯（45頁参照）

⑤アノード　メタルの損傷、腐食、がた

●付属工具の有無、携帯の確認（45頁参照）



エンジンのかけかた

⚠警告

排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれています。ボート　ハウスなどの換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。

取扱いのポイント

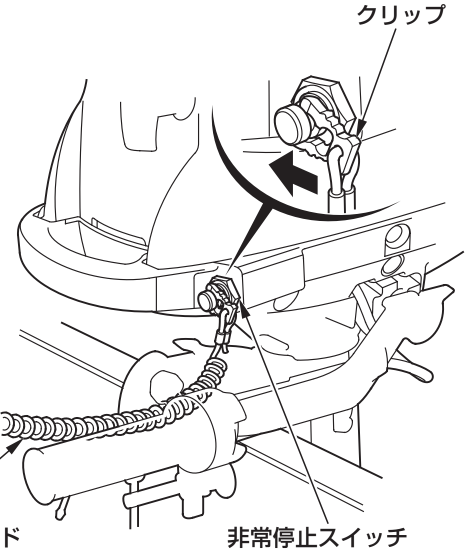
エンジンをかけるときは、必ず通常使用状態(プロペラが水中にある状態)で行ってください。絶対に水無しでは始動しないでください。本機を破損します。

出航前に必ず非常停止スイッチの点検をおこなってください。

- エンジンをかけた状態で、非常停止スイッチ　クリップを抜き、エンジンが停止することを確認してください。
  エンジンが停止しないときは、販売店で点検を受けてください。

1. カール　コードの先端(非常停止スイッチ　クリップ)を確実に非常停止スイッチに取付け、カール　コードの一方を運転者の身体の一部に取付けてください。

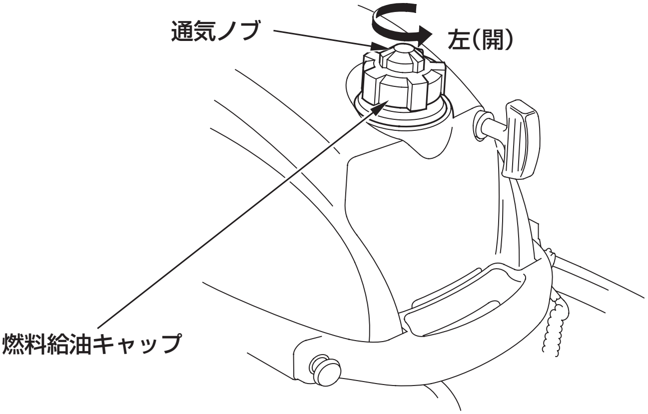
   - **クリップがスイッチに取付けられていないと、エンジンは始動しません。**
   - **予備クリップが工具袋に入っています。**



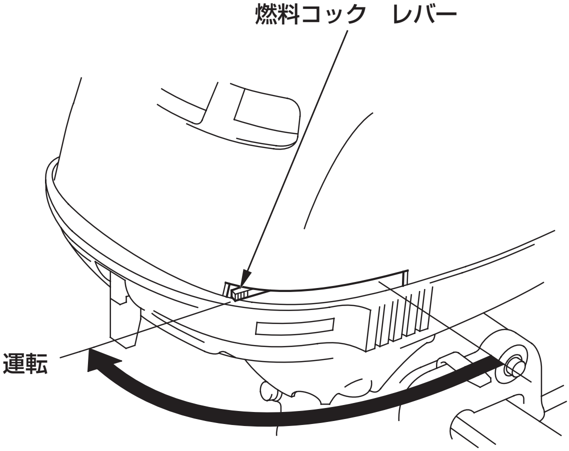
⚠警告

航走中は必ずカール　コードを運転者の身体の一部につけておいてください。落水したとき、エンジンが止まらずボートが暴走し運転者や乗客、そして付近にいる人々に重大な傷害を負わせる可能性があります。

2. 燃料給油キャップについている通気ノブを**左(開)**の方向に 2 ～ 3 回転まわしてゆるめます。



3. 燃料コック　レバーを**“運転”**の位置にします。



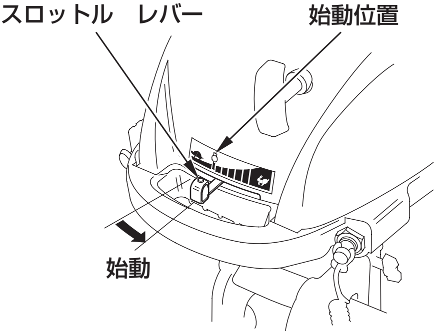
4. スロットル　レバーまたはスロットル　グリップを**“始動”**の位置にします。

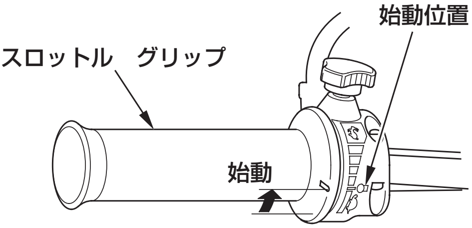
スロットル　レバー仕様:

SCJ/LCJタイプ

スロットル　グリップ仕様:

SCHJ/LCHJタイプ

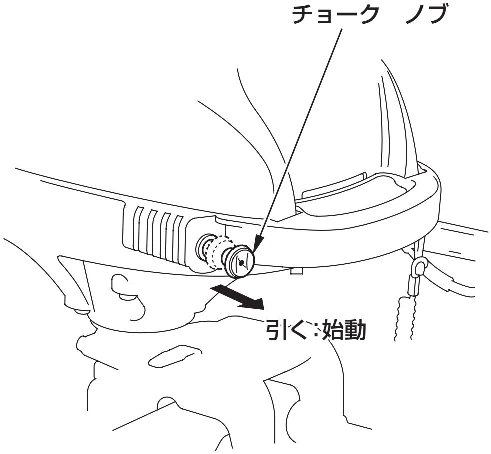




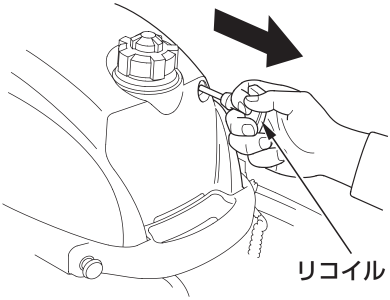
⚠警告

スロットル　レバーまたはスロットル　グリップは、必ず“始動”の位置にしてください。スロットルを“始動”の位置より“高速”側にすると、エンジン始動後エンジン回転が上がりすぎ、船が飛び出すおそれがあります。

5. エンジンが冷えているときや外気温が低いときはチョーク　ノブを引きます。



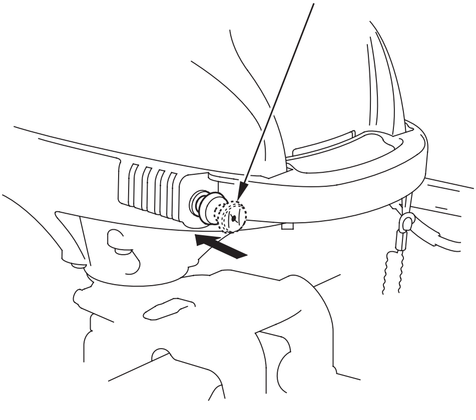
6. リコイル　スタータ　グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。



取扱いのポイント

- **リコイル　スタータ　グリップは手を添えてゆっくりと元に戻してください。始動装置を破損することがあります。**
- **運転中はリコイル　スタータ　グリップを引かないでください。始動装置に悪影響をあたえます。**
- **船外機は、船体に対し真直ぐに向けて始動してください。**

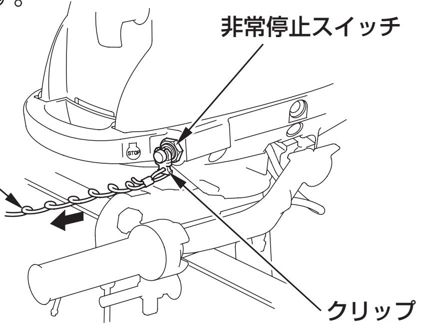
7. 2～3分間暖機運転を行います。
チョーク　ノブを操作した場合は、エンジン回転が安定するのを確認しながら元の位置に戻してください。



エンジンのとめかた

緊急停止の場合

非常停止スイッチのカール　コードを引き、非常停止スイッチ　クリップが引き抜かれるとエンジンが停止します。

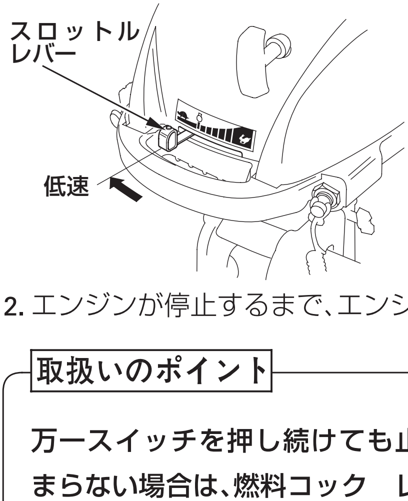


通常停止の方法

1. スロットル　レバーまたはスロットル　グリップを**“低速”**の位置にします。

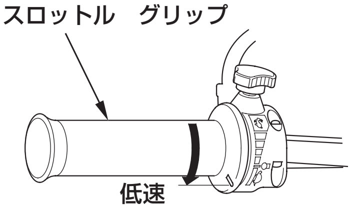
スロットル　レバー仕様:

SCJ/LCJタイプ



スロットル　グリップ仕様:

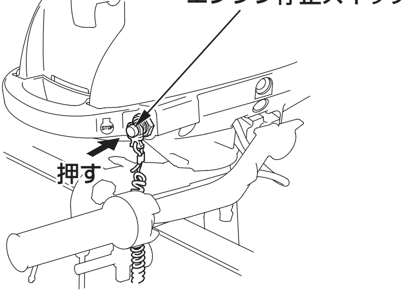
SCHJ/LCHJタイプ



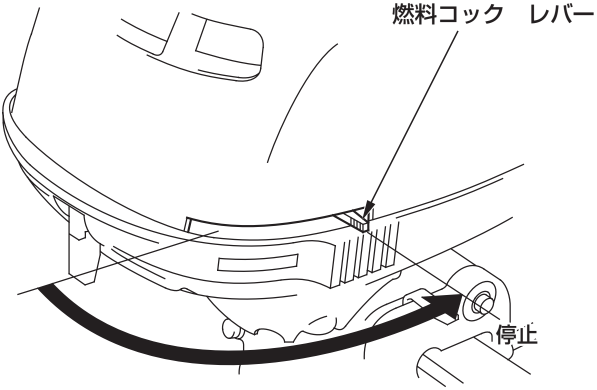
2. エンジンが停止するまで、エンジン停止スイッチを押し続けます。

取扱いのポイント

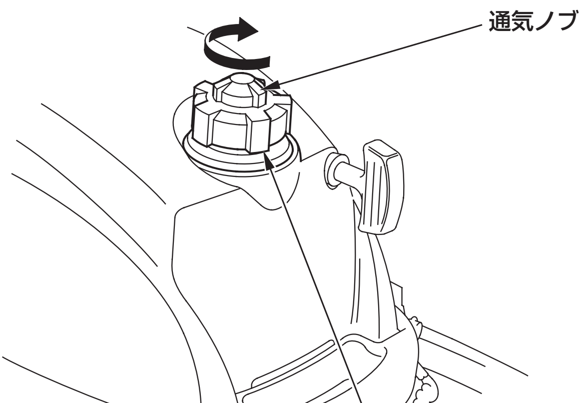
万一スイッチを押し続けても止まらない場合は、燃料コック　レバーを“停止”にし、チョーク　ノブを引いて止めてください。



3. 燃料コック　レバーを**“停止”**の位置にします。



4. 燃料給油キャップについている通気ノブを右に止まるまでまわします。



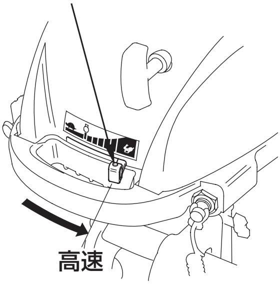
運　転　操　作　の　し　か　た

走りかた

スロットル　レバーまたはスロットル　グリップを**“高速”**の方向に動かすとスピードが上がります。一般にスロットルは全開にせず80%程度で走るのが経済的とされています。

スロットル　レバー仕様：
SCJ/LCJタイプ

スロットル　レバー

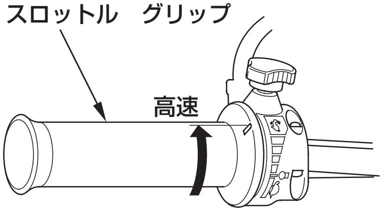


高速

スロットル　グリップ仕様：
SCHJ/LCHJタイプ

スロットル　グリップ

高速

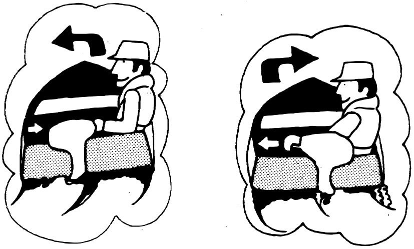


⚠警告

- **エンジン　カバーなしで航走しないでください。カバーを外して航走するとむき出しになって動いている部品によって、けがをすることがあります。また、エンジンに水がかかると故障の原因になります。**
- **不必要な急加減速やジャンプはできるだけ避けてください。同乗者が転倒したり、落水する可能性があります。**

かじ取り
ボートは、曲がる反対方向に大きく船尾をふり出すのが特色です。右に曲がるときはハンドルを左に、左に曲がるときは、ハンドルを右に切ります。
航走中は、ハンドルに体重をかけないように注意しましょう。

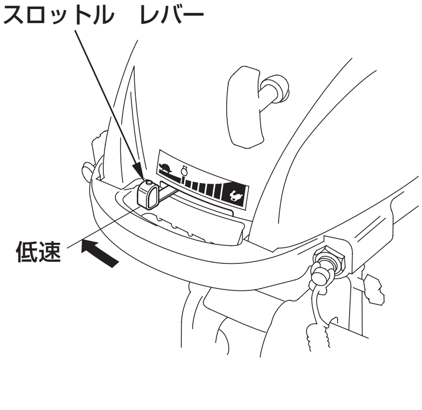
⚠警告
緊急時以外の急旋回は、行わないでください。急旋回は、落水、転覆のおそれがあります。



後進のしかた
1. スロットル　レバーまたはスロットル　グリップを**“低速”**の位置にして、エンジン回転数を下げます。
   スロットル　グリップ仕様は、スロットル　グリップ固定つまみを右にまわし、スロットル　グリップを**“低速”**の位置で固定します。

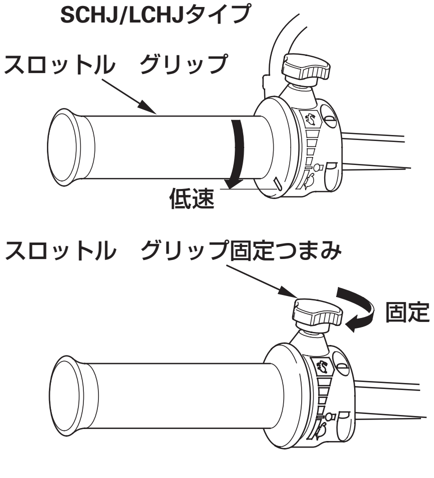
スロットル　レバー仕様:

SCJ/LCJタイプ



スロットル　グリップ仕様:

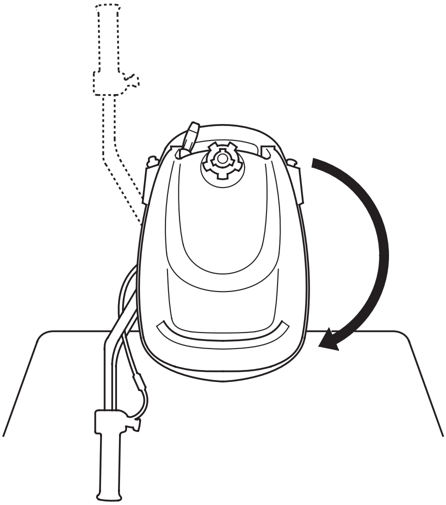
SCHJ/LCHJタイプ



⚠警告

前進から後進、後進から前進に変えるときは、必ずエンジン回転を一杯まで下げて行ってください。

2. 船外機を**180°**（半周）回転させます。次にハンドルを反転させます。
ハンドルを反転させるとき、スロットル　グリップを持たないでください。



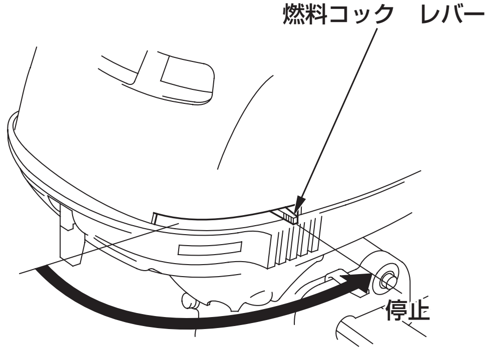
⚠警告

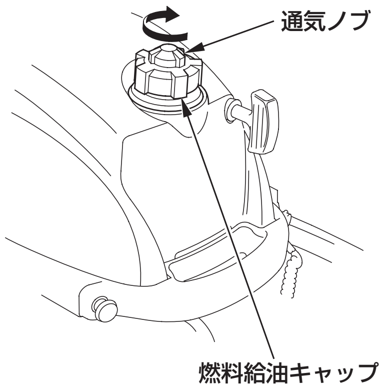
- **スロットル　レバー仕様においては、船外機を180°回転させた場合、スロットル　レバーの回転が逆になりますので十分注意してください。船側から見て右側に動かすとエンジン回転が下がり、左に動かすと上がります。**
- **後進はできるだけエンジン回転数を下げて行ってください。**
  回転を上げすぎると転覆するおそれがあります。

チルト　アップのしかた

エンジンを停止し、つぎに使用するまでの間、浅瀬に係留するときなど、岩や引き潮により、プロペラ、ギヤ　ケースを破損することがありますので、エンジンを傾斜させ（チルト　アップ）、プロペラを水面より上げておきます。

2. エンジンを停止させ、燃料コック　レバーを**“停止”**の位置にして、燃料給油キャップについている通気ノブを右に止まるまでまわします。



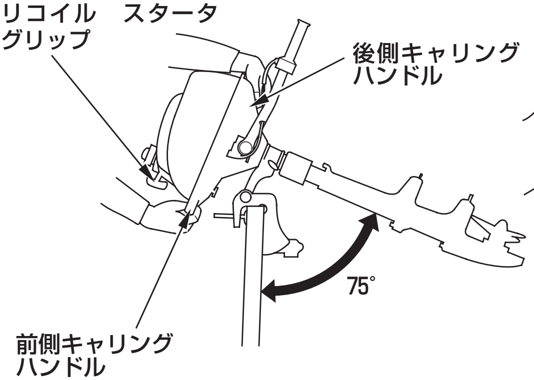


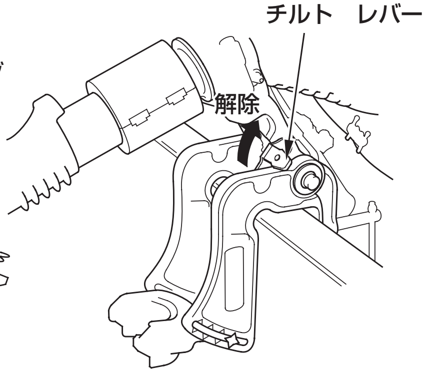
2. リコイル　スタータ　グリップを下側にして前後のキャリング　ハンドルを持ち、チルト　レバーがカチッと音をたてて固定されるまで、機体を持ち上げます。
   チルト角度： １段（75°）

取扱いのポイント

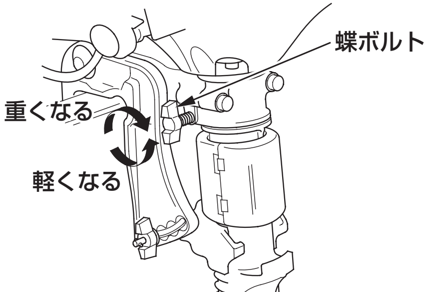
- **ハンドルやエンジン　カバーを持って、チルト　アップを行わないでください。**
- **指定以外の方向でチルト　アップすると、エンジン　オイルがもれたり、燃焼室内に入りエンジンが不調になるおそれがあります。**

使用状態にするときは、後側キャリング　ハンドルを持ち、機体を一旦持ち上げてからチルト　レバーを解除し、静かに降ろしてください。



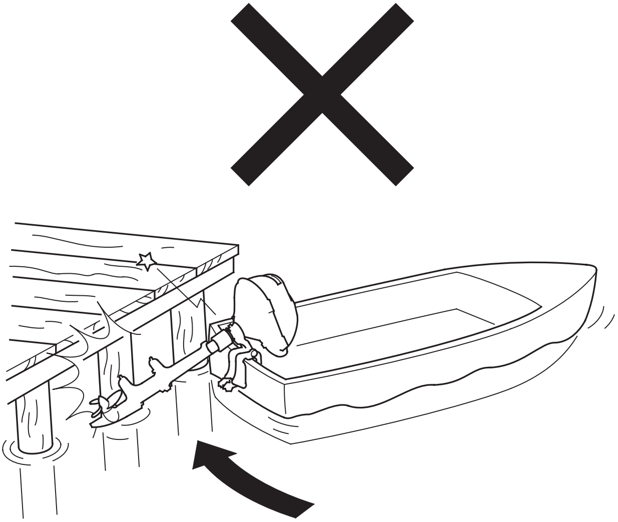


3. 船外機が自由に回転しないように、蝶ボルト（ハンドル重さ調整ボルト）を締付けます。
重くしたいとき
→ 右 に ま わ す　（時計方向）
軽くしたいとき
→左にまわす（反時計方向）



取扱いのポイント

係留時、チルト　アップした状態で、船外機を桟橋や他船等に衝突させないよう注意してください。



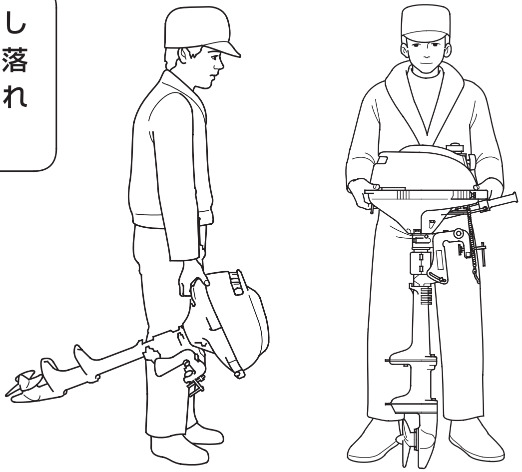
運　搬　の　し　か　た

船外機を運搬するときは、必ずキャブレータ内の燃料を抜いてください。
(58頁参照)

- 持ち運びするときは、キャリング　ハンドルを持って行ってください。

⚠注意

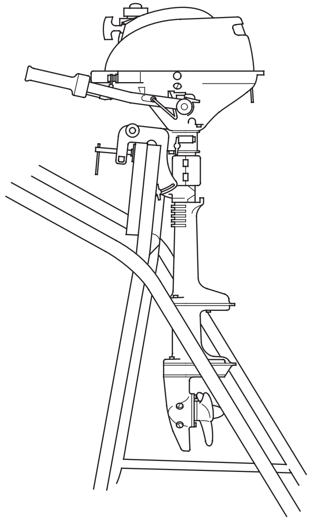
エンジン　カバーを持って運搬しないでください。カバーが外れて落下すると思わぬけがをするおそれがあります。



●船体から船外機を外した状態で、車に積んで運搬・保管を行なう場合

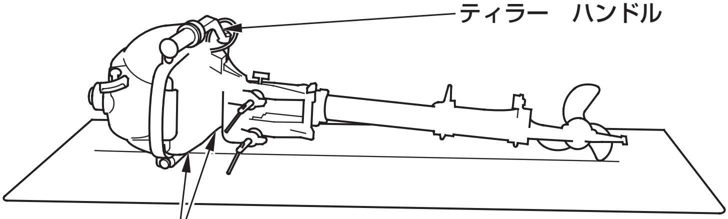
- 立てた状態での運搬・保管

立てた状態での運搬・保管はスタンド等を使用して右図のように行ってください。



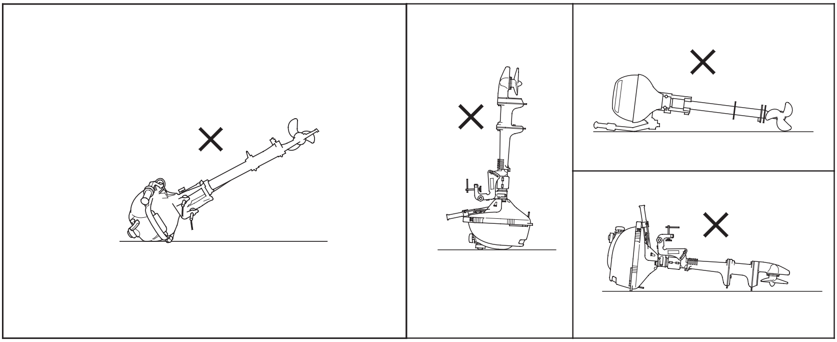
• 倒した状態での運搬·保管

横置状態での運搬·保管は、ケース　プロテクタを下側にして(ティラー　ハンドルが上になるように)、ウレタンフォームや毛布などを船外機の下に敷いて損傷を受けないようにします。



取扱いのポイント

オイルが多い場合や下図のような状態で運搬、保管はしないでください。オイル漏れの原因になります。
誤った取扱いをすると正規横置き状態に戻しても、オイルが漏れる場合があります。

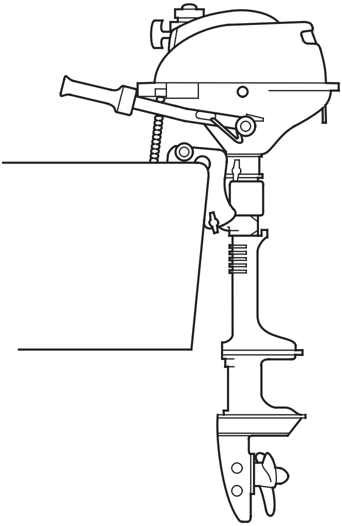


●船体に船外機を取付けた状態で運搬を行なう場合

• トレーラー運搬時の注意

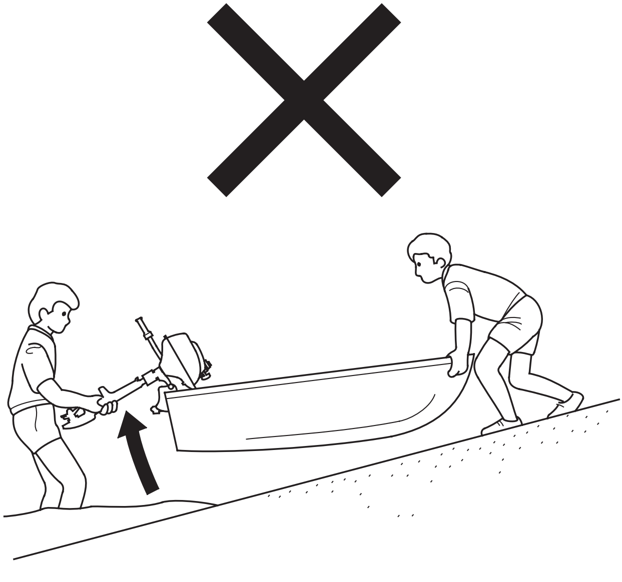
船外機を船体に取付けた状態で運搬するときは、通常の航走状態で運搬してください。その際、船外機が自由に回転しないように蝶ボルト（ハンドル重さ調整ボルト）を締付けてください。

この状態で路面からの間隔が十分とれない場合は、チルト　アップして、船外機が動かないように確実に**チルト　セーバー**（市販品）などでしっかり固定してください。



取扱いのポイント

船外機を船体に取付けて運ぶときは、船外機を持たないでください。



定　期　点　検　を　行　い　ま　し　ょ　う

お買いあげいただきましたHonda船外機をいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検整備項目

点検項目	点検時期(3)	作業前	初回 1ケ月又は 10時間 運転毎	6ケ月毎 又は 50時間 運転毎	1年毎 又は 150時間 運転毎
エンジン　オイル	点検	○			
	交換		○	○	
ギヤ　ケース　オイル	交換		○	○	
スタータ　ロープ	点検			○	
キャブレータ　リンク	点検－調整		○(2)	○(2)	
タペット隙間	点検－調整				○(2)
点火　プラグ	点検－調整		○	○	
	交換	200時間運転毎			
プロペラ、割ピン	点検	○			
アノード	点検	○			
アイドル回転	点検－調整		○(2)	○(2)	
各部の油脂及びグリース	塗布		○(1)	○(1)	
燃料タンク、タンク　フィルタ	清掃			○(2)	
クラッチ　シュー、アウタ	点検				○(2)
スイベルケース　ライナ、ブッシュ	交換	3年毎(2)			
ウォータ　シール	交換	3年毎(2)			
燃料チューブ	点検	○			
	交換	2年毎(必要時交換)(2)			
各部の締付け	点検、締付け		○(2)		○(2)
クランク　ケース　ブリーザ　チューブ	点検				○(2)
非常停止スイッチ	点検	○			

(1)海水の中で使用する時は頻繁に給油及びグリースを塗布ください。
(2)これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買い上げ販売店へお申し付けください。
(3)点検時期はどちらか早い方で実施してください。
※販売店で点検整備を行ったときは、巻末の点検整備記録表に記入してもらってください。

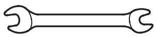
点　検　・　整　備　の　し　か　た

付属工具と付属部品

⚠注意

点検・整備を行うときは、必ずエンジンを停止してください。

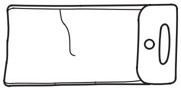
付属工具と付属部品は、点検整備、応急修理にかかすことのできないものです。
いつも所定の場所に格納しておきましょう。



8 × 10 mmスパナ

⊖／⊕ドライバ

予備クリップ

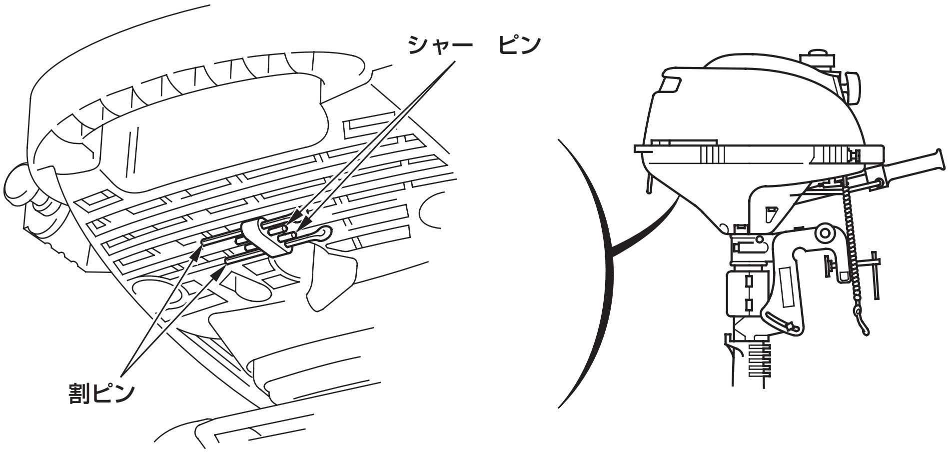


工具袋

プラグ　レンチ

プライヤ

スタータ　ロープ



エンジン　オイルの点検・交換

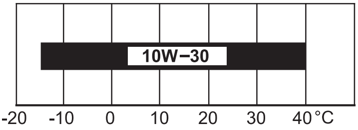
オイルが不足していたり、汚れていると摺動部や回転部分の寿命をいちじるしく縮めます。

〈交換時期〉 初回：ご購入後１か月目または10時間運転時
以後：６か月毎または50時間運転毎
（４ストローク　ガソリン　エンジン　オイル）

〈推奨オイル〉 Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）
またはAPI分類SG, SH, SJ級相当のSAE 10W-30エンジン　オイル

〈規定量〉 0.25 L

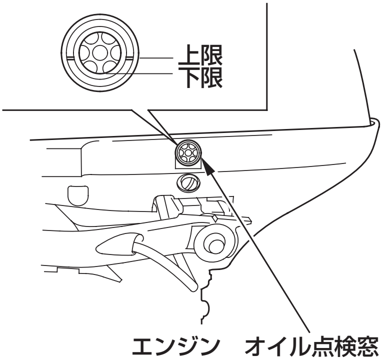
エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。



外気温

〈点検のしかた〉

1. 本機を直立状態にします。
2. エンジン　オイル点検窓の上限と下限の間に油面があることを確認します。
   油面が見えない場合や下限に近い場合は、補給してください。
   同時にオイルの汚れはないか点検してください。汚れている場合は、交換してください。



エンジン　オイル点検窓

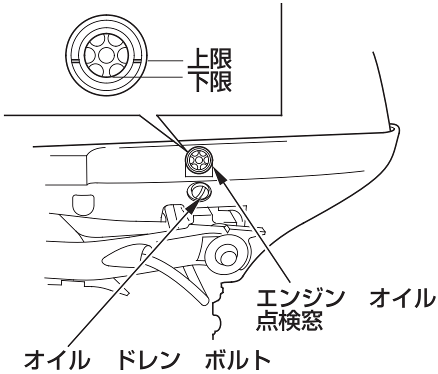
〈交換のしかた〉

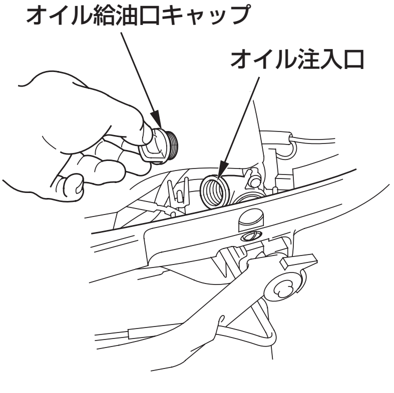
⚠注意

エンジン停止直後は、エンジン本体の温度や、油温が高くなっていますので、冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

1. 燃料給油キャップについている通気ノブを右に止まるまでまわします。
2. 燃料コック　レバーを“停止”の位置にします。

3. オイル　ドレン　ボルトをゆるめ、船外機をハンドル側に傾けます。
4. オイル　ドレン　ボルトとワッシャを外し、オイルを抜きます。
5. 船外機を直立状態にします。
6. 新しいワッシャをオイル　ドレン　ボルトに取付け、オイル　ドレン　ボルトをしっかり締付けます。
7. エンジン　カバーを外します。
8. オイル給油口キャップを外し、エンジン　オイル点検窓の上限まで新しいエンジン　オイルを注入します。
9. オイル給油口キャップをゆるまないように確実に締付けます。
10. エンジン　カバーを取付けます。





取扱いのポイント

- オイルは、使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行いましょう。
- オイル給油口キャップは、手で確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。
- オイルを入れすぎないよう、注入後必ず点検してください。オイルが少ないときはもちろんのことですが、入れすぎることもエンジンの故障の原因になります。

ギヤ　オイルの交換

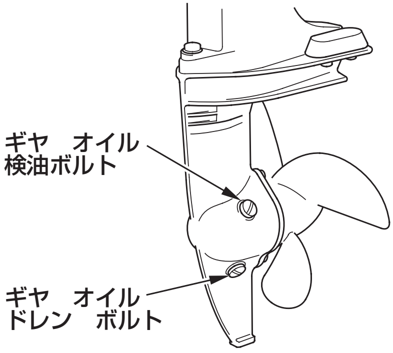
ギヤ　オイルが不足していたり、汚れていると回転部分の寿命を著しく縮めます。

〈指定オイル〉 API分類GL-4またはGL-5マルチパーパスSAE90番ギヤ　オイル

〈交換時期〉 初回：ご購入後１か月目または10時間運転時

以後：６か月毎または50時間運転毎

〈規定量〉 0.05 L



〈交換のしかた〉

1. オイル検油ボルト、オイル　ドレン　ボルトを外し、オイルを抜きます。
2. 新品のワッシャをオイル検油ボルト、ドレン　ボルトにセットしておきます。
3. オイル検油ボルト孔からオイルが流れ出るまでオイル　ドレン　ボルト孔からオイルを注入します。

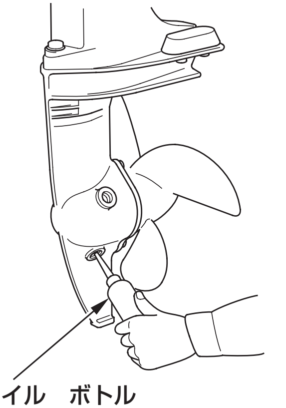
● 注油は、別売部品のギヤ　オイル　ボトルをご使用になりますと、より早く容易に行えます。

4. オイル検油ボルト、ドレン　ボルトをギヤケースに取り付け、規定トルクで締め付けます。

   規定トルク：

   3.4 N·m　{0.35 kgf·m}

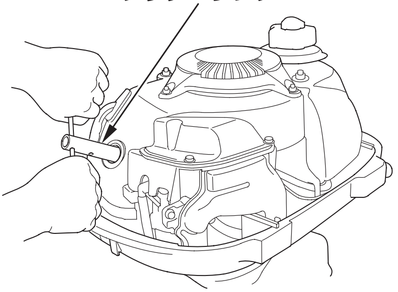
● ご自身で規定トルクが管理できないときは、お買い上げ販売店にご相談してください。



点火プラグの点検・調整・交換

⚠注意

停止直後のエンジンは高温になっています。やけどをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

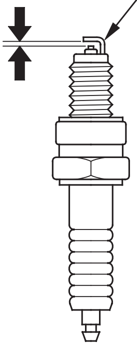


点火プラグが汚れていたり、電極が摩耗すると完全な火花が飛ばなくなります。

〈点検・調整時期〉
初回：ご購入後１か月目または10時間運転時
以降：６か月毎または50時間運転毎

〈交換時期〉
200時間運転毎

〈清掃のしかた〉
- エンジン　カバーを外し、プラグ　レンチで点火プラグを外します。
- プラグ　クリーナーで清掃します。プラグ　クリーナーがないときは、ワイヤーブラシ等で汚れを落としてください。



〈調整のしかた〉
側方電極を曲げ、火花すき間を下記の寸法に調整します。

適正すき間： 0.6－0.7 mm

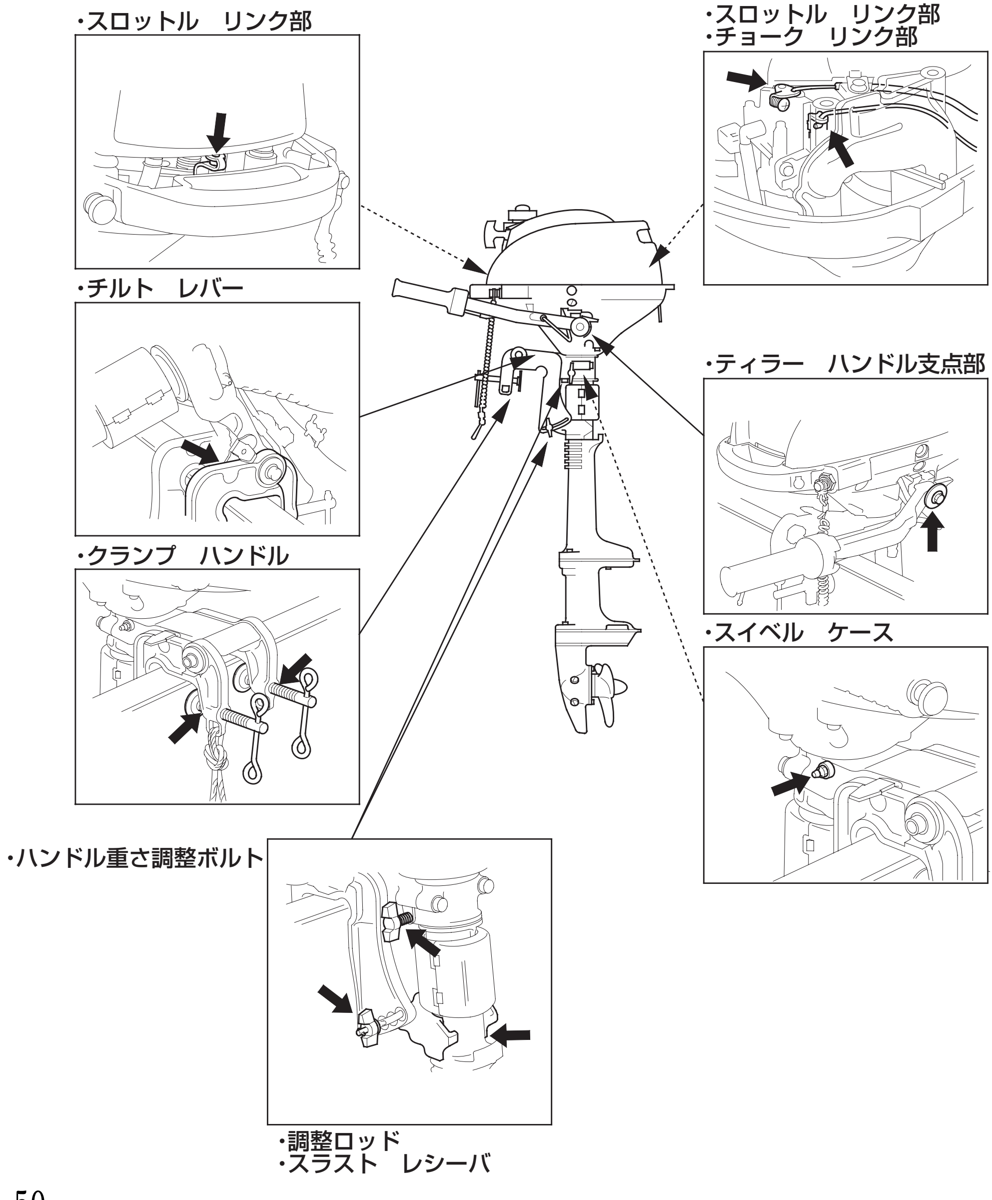
〈標準点火プラグ〉
CR4HSB (NGK)
U14FSR-UB (DENSO)

取扱いのポイント

- **点火プラグを組付けるときは、最初手で軽く一杯までねじ込んでからプラグレンチで締付けてください。**
- **標準以外の点火プラグを使用しないでください。**

耐水グリース給油箇所

矢印←の部分にグリースを塗布します。



プロペラの交換のしかた

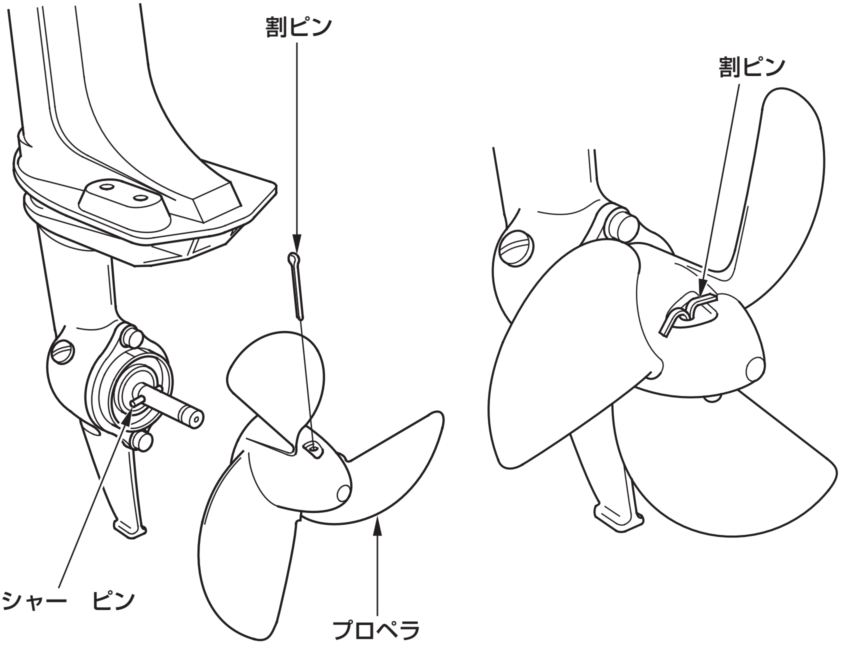
⚠警告

プロペラのブレードは薄く鋭利で不用意に取扱うとけがをするおそれがあります。プロペラを交換するときやブレードに付着した異物を除去するときは

- **エンジンが始動するのを防ぐために必ず非常停止スイッチのクリップを外しておいてください。**
- **手袋等をして注意して行ってください。**

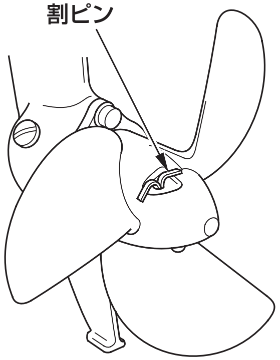
損傷の著しいプロペラはつぎの手順で交換してください。

1. 割ピンを伸ばし、引き抜きます。
2. プロペラを取外します。
3. 取付けは逆の手順で行ってください。割ピンは新品と交換してください。
   シャー　ピンに曲がりや傷のある場合は新品と交換してください。

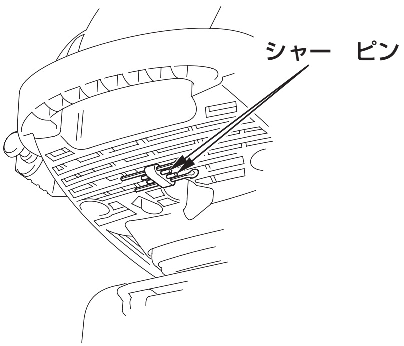


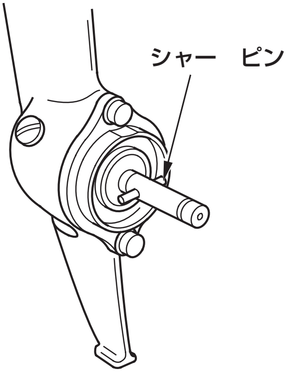
シャー　ピンの交換

プロペラが岩、クイなどの障害物に当ったときに、プロペラ、および船外機内部を保護するためにシャー　ピンが入っています。



1. 割ピンを抜き、プロペラを外します。
2. 折れたシャー　ピンを抜き破片が残らないようにしてから、付属のシャー　ピンと交換します。





3. 交換後、シャー　ピンの向きに合せてプロペラを取付けます。割ピンは新しいものと交換し、取付け後は、必ず図のように曲げてください。
   シャー　ピンと割ピンは、たえず 2 本（純正部品）を携帯してください。

取扱いのポイント

シャー　ピン交換時、プロペラを水中に落とさないよう注意してください。

プロペラについての注意

プロペラは航走中高速回転をするため出航前にプロペラの傷、変形等を点検して異常のある場合は交換してください。

航走中の不測の事故に備えてスペアのプロペラを用意してください。

スペアのプロペラを携帯していない場合には低速で静かに帰り、プロペラを交換してください。

プロペラの選定はお買いあげ販売店にご相談ください。

スタータ　ロープの点検

〈点検時期〉 6 か月毎または50時間運転毎

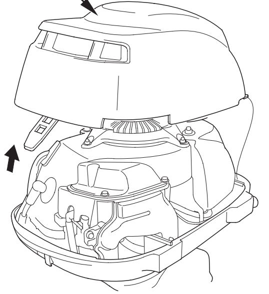
スタータ　ロープの摩耗、損傷を点検します。

異常のある場合は、お買いあげ販売店にご相談ください。

始動装置の故障

始動装置が故障した場合は、付属のスタータ　ロープでエンジンを始動することができます。

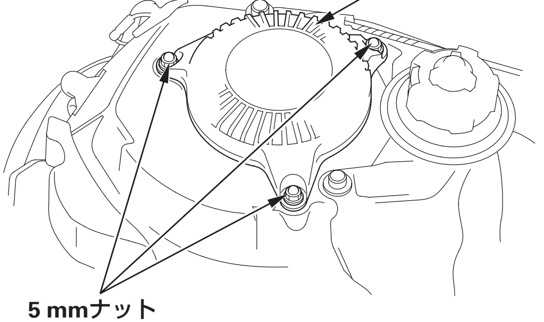
1. エンジン　カバーを外します。



2. 5　mmナット 3 個を外し、リコイル　スタータとエンジン　カバーをいっしょに取外します。

取扱いのポイント

リコイル　スタータを取外すときは、チルト　アップして、5 mmナットを水中やエンジン内部に落とさないように注意してください。5 mmナットはいったん締付けるか、確実に保管してください。

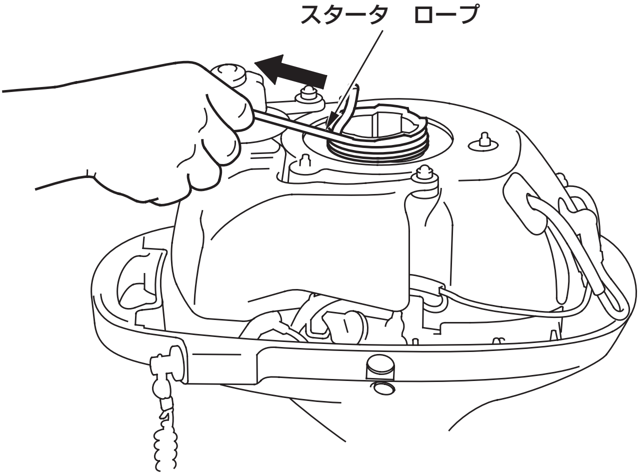


3. 付属部品のスターター　ロープの結び目をスターター　プーリーの切り欠きに引っかけロープを溝にそって時計方向に巻き付けます。
4. スターター　ロープを引き、エンジンを始動します。
5. 回転部に気をつけて、エンジン　カバーを本機に取付けてください。

⚠警告

むき出しになって動いている部品や高圧部分は、さわるとけがを引き起こすことがあります。

- **フライホイール等回転部に手、髪、衣類等を近づけないでください。**
- **高圧コードや点火プラグに触れないでください。**
- **エンジン　カバーを取付けるときには回転部に十分に注意してください。**

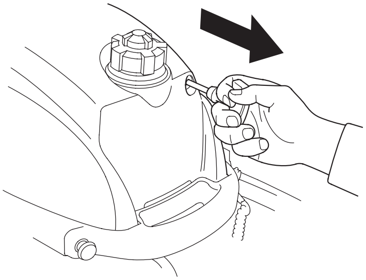


船外機が落水したとき

水没した船外機は、なるべく早く分解・整備を行ってください。

分解・整備を行うまでの処置として、つぎのことを行ってください。

1. 水没したら、直ちに引き上げ、塩分、泥、水草等を真水できれいに洗い落とします。

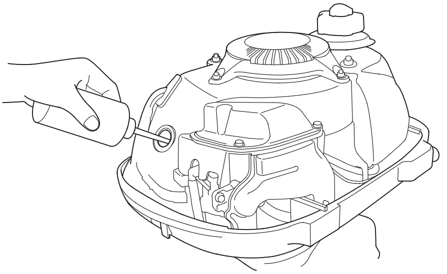


2. 点火プラグを外し、リコイル　スタータ　グリップを数回引いてシリンダ内の水を完全に抜きます。

取扱いのポイント

必ず点火プラグを外してからリコイル　スタータ　グリップを引いてください。

3. 点火プラグ穴からオイルを入れ数回リコイル　スタータ　グリップを引いてシリンダ内にオイルをまわしておきます。



4. できるだけ早くお買いあげ販売店で分解、整備を行ってください。

エンジンがかからないとき
（故障のときは 60 頁を参照してください）

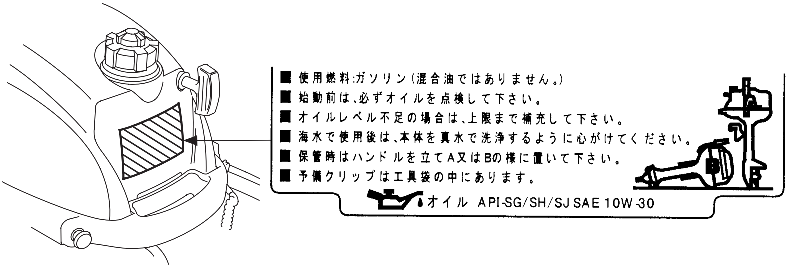
始動しないときは次の点を確めましょう。

- 燃料はありますか？
- 通気ノブは開いていますか？
- エンジン　オイルは規定量ありますか？
- 点火プラグは汚れ、濡れていませんか、また火花すき間は適正ですか？
- 始動方法は、取扱説明書通りですか？

少し時間をおいて
もう一度確めましょう

保　管　の　し　か　た

保管は、本機に貼付されたラベルの説明文をよくご覧になって正しく行いましょう。



- 船外機を長持ちさせるために、来たるべきシーズンにそなえ、保管前にお買いあげ販売店で整備をお受けになることをおすすめします。
  30日以上使用しない時は、キャブレータの燃料を抜いてください。
  古くなった燃料は故障の原因となります。

清掃・手入れ

海水、汚水で使用した後は、次の要領で清掃、手入れを行ってください。

⚠警告

船外機がしっかりと固定されているか確認してください。

- 外装を真水で、ていねいに洗い、汚れ、塩分を落としてください。
- オイルを浸した布で外装を拭いてください。

燃料の抜きかた

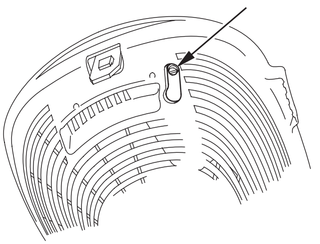
船外機から燃料を抜きます。ガソリンは自然劣化しますので必ず抜いてください。

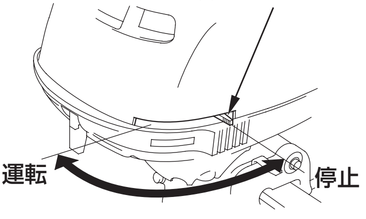
⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また、気化したガソリンは爆発して大けがや死亡事故を引き起こすことがあります。

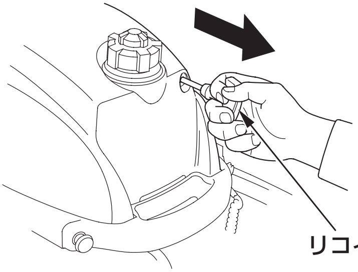
- **エンジンを停止してください。**
- **火気を近づけないでください。**
- **身体に帯電した静電気を除去してから給油作業を行ってください。**
  静電気の放電による火花により、気化したガソリンに引火しやけどを負うおそれがあります。
  本機や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- **換気のよい場所で行ってください。**
- **ガソリンをこぼさないでください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災や環境に注意して処分してください。**

1. 燃料給油キャップを外して、燃料タンク内の燃料を抜きます。
2. 燃料コック　レバーを **"運転"** の位置にし、キャブレータのドレン　スクリュをゆるめてキャブレータ内とタンクに残った燃料を容器に受けます。
3. 完全に燃料が抜けたらドレン　スクリュを確実に締め付け、燃料コック　レバーを **"停止"** の位置にします。
4. 燃料給油キャップを取付けます。





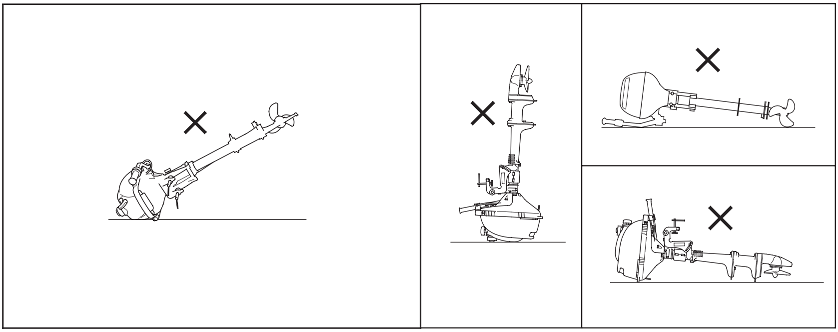
リコイル　スタータ　グリップをゆっくり引き、重くなるところで止めます。(エンジン　バルブが閉じ、シリンダ内に錆が発生しないように、また燃焼室内にほこりが入らない状態にする)



● 立てた状態での運搬・保管(41頁参照)または、倒した状態での運搬・保管(42頁参照)に従って保管してください。

取扱いのポイント

- **直射日光をさけ、風通しのよい、湿気の少ない場所に保管します。**
- **次回使用時は、新鮮な燃料を入れてください。**
- **下図のような状態での運搬、保管は絶対にしないでください。**



● 係留などで本機をボートに取付けた状態で、チルト　アップして保管する場合、リコイル　スタータ　グリップを下側にして、蝶ボルト(ハンドル重さ調節ボルト)を締付けてください。(38頁"チルト　アップのしかた"参照)

故　障　の　と　き　は

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検をしてもらうことが船外機を長持ちさせる秘けつです。

①エンジンがかからない

燃料

現　　象	原　　因	解 決 方 法
キャブレータに燃料がこない	燃料タンクに燃料がない	補給:27頁参照
	燃料コックが開いていない	燃料コック　レバーを **“運転”** の位置にする:30頁参照
	通気ノブが開いていない	ノブを開く:30頁参照
	燃料タンク　フィルタの詰まり	販売店にお持ちください
	燃料ホースの折れ曲がり	折れ曲がりをなおす
キャブレータに燃料はくる	キャブレータのオーバーフロー	販売店にお持ちください
	キャブレータの詰まり	

電気

現　　象	原　　因	解 決 方 法
電気系統の不良	点火プラグの汚れ	清掃:52頁参照
	火花すき間不良	調整:52頁参照
	プラグの破損	交換:52頁参照
	高圧コードの電気リーク	販売店にお持ちください
	イグニッション　コイル不良	
	ワイヤ　ハーネスの不良	
	停止スイッチ　コードの電気リーク	
	停止スイッチの戻り不良	
	点火プラグの締付け不良	点火プラグを確実に締付ける:52頁参照
	非常停止スイッチ　クリップの取付け不良	クリップを確実に取付ける:29頁参照

②始動してもすぐ止まる。航走中時々エンジンが止まる。

<table>
<tr><th>現　　象</th><th>原　　因</th><th>解　決　方　法</th></tr>
<tr><td rowspan="6">燃料タンクに燃料はある</td><td>燃料に水が混入している</td><td>販売店にお持ちください</td></tr>
<tr><td>通気ノブが開いていない</td><td>ノブを開く：27頁参照</td></tr>
<tr><td>燃料タンク　フィルタが詰まっている</td><td rowspan="4">販売店にお持ちください</td></tr>
<tr><td>エア　スクリュの開きすぎ</td></tr>
<tr><td>アイドリングの低過ぎ</td></tr>
<tr><td>キャブレータの詰まり</td></tr>
</table>

エンジン　オーバーヒート

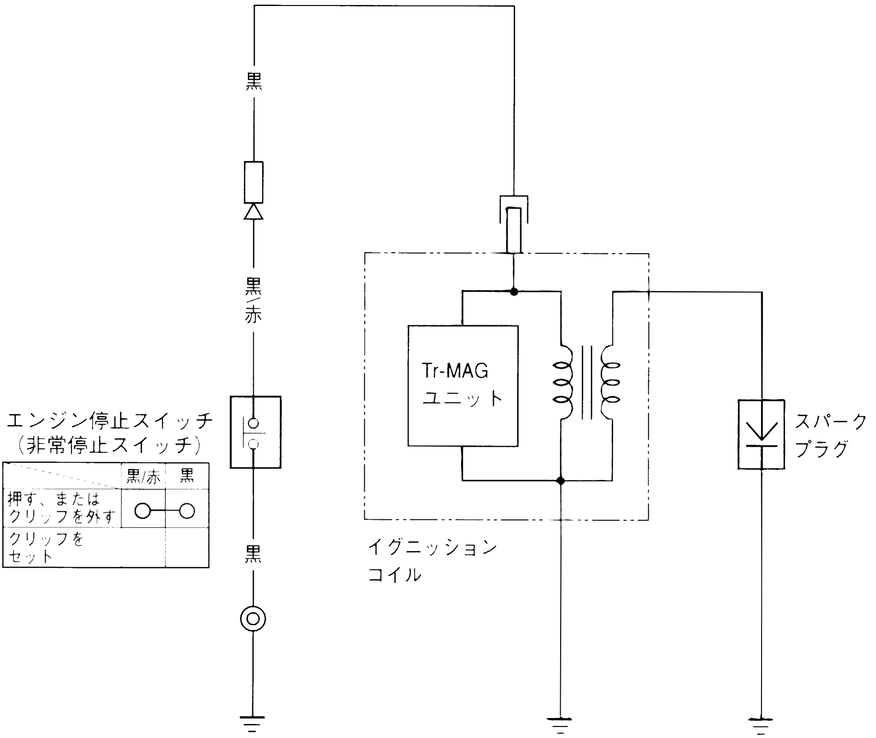
現　　象	原　　因	解　決　方　法
オーバーヒート	点火プラグの品番のちがい	正しい点火プラグを取付ける：52頁参照

主　要　諸　元

項　目	仕様諸元			
名称（型式）	Honda船外機BF2D (BZBF)			
タイプ	SCJ	SCHJ	LCJ	LCHJ
寸法				
全長	410 mm		410 mm	
全幅	280 mm		280 mm	
全高	945 mm		1,100 mm	
乾燥重量	13.0 kg	13.5 kg	13.5 kg	14.0 kg
定格出力	1.47 kW (2 PS)			
推奨回転範囲	5,000－6,000 rpm			
シリンダ内径×行程	45 × 36 mm			
総排気量	57 cm^3			
冷却方式	強制空冷			
始動方式	リコイル　スタータ式			
潤滑方式	強制飛沫式			
潤滑油量	エンジン：0.25 L ギヤ　ケース：0.05 L			
指定オイル	エンジン：Honda純正ウルトラU汎用（SAE 10W-30）またはAPI分類SG, SH, SJ級相当のSAE 10W-30エンジン　オイル ギヤ　ケース：API分類GL-4またはGL-5マルチパーパスSAE分類90番ギヤ　オイル			
燃料タンク容量	1.0 L			
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン			
点火方式	トランジスタ　マグネト式			
点火プラグ	CR4HSB (NGK)　、U14FSR-UB (DENSO)			
操縦装置	ティラー　ハンドル			
チルト角度	75°（トランサム角5°時）			
プロペラ	翼数－直径 × ピッチ（3－184 × 120 mm）			
回転方向	進行方向に向って右回転			
トランサム長さ	418 mm		571 mm	

この主要諸元は予告なく変更することがあります。

配　　線　　図


黒
黒/赤
黒
エンジン停止スイッチ
（非常停止スイッチ）
黒/赤
黒
押す、または
クリップを外す
クリップを
セット
Tr-MAG
ユニット
イグニッション
コイル
スパーク
プラグ

点　検　整　備　記　録　表

定　期　点　検	実施年月日	実施工場	実施者氏名	臨時整備※
初回(10時間目)点検	・　・			
6 か月点検	・　・			
12か月(1年)点検	・　・			
18か月点検	・　・			
24か月(2年)点検	・　・			
30か月点検	・　・			
36か月(3年)点検 (法定中間検査)	・　・			
42か月点検	・　・			
48か月(4年)点検	・　・			
54か月点検	・　・			
60か月(5年)点検	・　・			
66か月点検	・　・			
72か月(6年)点検 (法定定期検査)	・　・			

※臨時整備を行ったときは、空欄に主たる整備内容を付記します。

Honda汎用製品についてのお問い合わせ·ご相談は、まず、

Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00

〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①製品名、タイプ名

②ご購入年月日

③販売店名

HONDA
The Power of Dreams

30ZW6608
00X30-ZW6-6080

BF2D6
Ⓢ
Ⓨ (HC) 250.2009.09
©2008 本田技研工業株式会社